深谷市教育委員会埋蔵文化財調査報告書　第80集

# 下道南遺跡

2006

深谷市教育委員会

# 下道南遺跡

2006

深谷市教育委員会

# 序

埼玉県北部に位置する深谷市は、平成18年１月に深谷市・岡部町・川本町・花園町との合併により新たなスタートを迎えることとなりました。合併後の深谷市は、北部に利根川、南部に荒川が流れ、変化に富んだ地形や豊富な農産物があり、自然の恵み豊かな土地柄を有しています。

ここには、先人たちの残した足跡が、埋蔵文化財として今なお多く眠っております。なかでも、縄文時代晩期から弥生時代初期の土器を出土した四十坂遺跡・上敷免遺跡や、古代榛沢郡・幡羅郡の役所と推定される中宿・幡羅遺跡などは、埼玉県の原始・古代を考える上で欠かすことのできない遺跡と言えるでしょう。

深谷市では、合併以前から、こうした貴重な遺跡群を保護するために鋭意努力してまいりましたが、やむなく破壊を免れない場合は、記録保存のための発掘調査を実施してまいりました。

本報告書は、平成元年度に民間会社の受託事業として、実施した調査の成果をまとめたものです。小規模な調査でありましたが地域史解明の上では、成果を得られたものと確信しています。

本書が学術・教育関係はもとより、文化財に対する保護・保存の啓蒙・普及を図る資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成まで、多大なるご理解とご協力を賜りました関係各位・諸機関に心より御礼申し上げます。

平成18年10月

深谷市教育委員会
教育長　猪野幸男

## 例言

1．本書は、平成元年度に実施した下道南遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査地点の地番は、深谷市榛沢新田171番地である。

2．発掘調査は、岡部町遺跡調査会が、株式会社オリエンテックの委託を受け実施した。平成17年度岡部町遺跡調査会の解散により、整理・報告書作成作業は、深谷市教育委員会が実施した。
発掘調査及び整理報告書作成期間は、以下のとおりである。

| | |
|---|---|
| 発掘調査 | 平成元年12月６日～平成元年12月22日 |
| 整理・報告書作成 | 平成18年４月10日～平成18年10月31日 |

4．出土品の整理及び図版作成は、鳥羽政之・宮本直樹・竹野谷俊夫が行った。

5．本書の編集・執筆は、鳥羽政之が担当した。

6．本書に掲載した資料は、深谷市教育委員会が保管している。

## 凡例

1．発掘調査位置図は岡部町都市計画図　1／2,500を、縮小し使用した。

2．遺物観察表の数値に（　）のあるものは推定値、《　》のあるものは残存値を示す。

## 組織

平成18年度

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教育長 | 猪野幸男 | 臨時職員 | 竹野谷俊夫 |
| 教育次長 | 古川国康 | 〃 | 黒澤　恵 |
| 教育委員会次長 | 中村信雄 | 〃 | 佐藤由江 |
| 深谷市教育委員会岡部事務所 | | 〃 | 布施みゆき |
| 所長 | 柳田一郎 | | |
| 所長補佐 | 鈴木八十子 | | |
| 主　査 | 根岸　宏 | | |
| | 金井登美子 | | |
| | 鳥羽政之 | | |
| | 森田富雄 | | |
| | 宮本直樹 | | |

# 目 次

序

例言・凡例・組織

－目次－

Ⅰ　調査に至るまでの経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境 …… 2

　1. 地理的環境 …… 2

　2. 歴史的環境 …… 3

Ⅲ　発見された遺構と遺物 …… 15

　1. 調査地点の位置 …… 15

　2. 調査の経過 …… 15

　3. 発見された遺構と遺物 …… 15

Ⅳ　まとめと考察 …… 20

　1. 1号住居跡出土土器の編年的位置 …… 20

　2. 藤治川・針ヶ谷堀流域の遺跡群の動向について …… 21

＜挿図目次＞

第1図　縄文時代草創期の遺跡分布 …… 4
第2図　縄文時代早期の遺跡分布 …… 4
第3図　縄文時代前・中期の遺跡分布 …… 6
第4図　縄文時代後・晩期の遺跡分布 …… 6
第5図　弥生時代の遺跡分布 …… 8
第6図　藤治川中流域の状況（深谷市本郷） …… 8
第7図　古墳時代前期の遺跡分布（集落） …… 10
第8図　古墳時代前期の遺跡分布（墳墓） …… 10
第9図　古墳時代中期の遺跡分布（集落） …… 11
第10図　古墳時代中期（一部前期末含）の遺跡分布（古墳） …… 11
第11図　古墳時代後期の遺跡分布（集落・その他） …… 12
第12図　古墳時代後期の遺跡分布（古墳・古墳群） …… 12
第13図　飛鳥～奈良／平安時代の遺跡分布 …… 13
第14図　下道南遺跡遠景（深谷市榛沢新田） …… 13
第15図　針ヶ谷堀と西龍ヶ谷遺跡（深谷市榛沢新田） …… 13
第16図　下道南遺跡の範囲と調査地点 …… 15
第17図　下道南遺跡全測図 …… 16
第18図　下道南遺跡1号住居跡 …… 16
第19図　1号住居跡遺物分布状況 …… 17
第20図　1号住居跡カマド実測図 …… 18
第21図　1号住居跡出土遺物 …… 19
第22図　下道南遺跡採集埴輪 …… 19
第23図　熊野遺跡A区7号住居跡 …… 26
第24図　熊野遺跡1次4号住居跡 …… 26
第25図　新田遺跡B区2号住居跡 …… 26
第26図　藤治川・針ヶ谷堀流域の遺跡群とその周辺 …… 23
第27図　用土北沢遺跡 …… 24
第28図　長坂古墳・玄蕃谷遺跡 …… 25
第29図　狢山古墳群 …… 25
第30図　狢山祭祀遺跡 …… 26
第31図　千光寺遺跡 …… 27
第32図　茶臼山古墳群 …… 28
第33図　平塚古墳 …… 28
第34図　西龍ヶ谷遺跡 …… 29
第35図　地福院遺跡 …… 29
第36図　中南遺跡 …… 29
第37図　石原山瓦窯跡 …… 30
第38図　寺山遺跡 …… 30
第39図　藤の木遺跡 …… 30
第40図　中山遺跡 …… 31

【写真図版1】
下道南遺跡全景
下道南遺跡1号住居跡完掘状況

【写真図版2】
1号住居跡遺物出土状態（1）
1号住居跡遺物出土状態（2）

【写真図版3】
1号住居跡No.2
1号住居跡No.4
1号住居跡No.3
1号住居跡No.7
1号住居跡No.8
1号住居跡No.10
下道南遺跡採集埴輪No.1
下道南遺跡採集埴輪No.2
下道南遺跡採集埴輪No.3

# Ⅰ　調査に至るまでの経緯

平成18年１月１日、深谷市、岡部町、川本町、花園町の一市三町が合併し、人口約14万６千人、総面積137.58㎢の新「深谷市」が誕生した。

このうち旧岡部町域は、埋蔵文化財の宝庫として古くから知られてきた。なかでも、縄文時代草創期の土器を出土した西谷遺跡を筆頭に、前期末～中期にかけての弥生土器を出土した四十坂遺跡、県内屈指の副葬品を有する四十塚古墳、榛沢評・郡家と推定される中宿・熊野遺跡など、各時代を通して著名な遺跡が多く、関係する発掘調査も数多く実施されている。遺跡数は、旧岡部町域で、145箇所が確認されている。

本報告の発掘調査は、平成元年度工場建設にともなう緊急発掘として岡部町遺跡調査会が実施したものである。岡部町遺跡調査会は、平成17年12月をもって解散し、その事業は深谷市教育委員会へ引き継がれることとなった。以下に報告書刊行までの経緯を記す。

## 1. 発掘調査

下道南遺跡（県遺跡登録番号63-21）は、ＪＲ高崎線岡部駅の西方約0.9㎞に位置する。

今回報告する調査地は、株式会社オリエンテック（以下事業者と記す）による工場建設に伴う発掘調査である。

事業者は、平成元年６月19日付で、岡部町教育委員会に、開発予定地における埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについて照会した。これに基づき教育委員会では、埋蔵文化財の詳細を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査では、工場予定地の一角より竪穴住居跡１軒が検出された。

この結果を踏まえ、岡部町教育委員会では、平成元年11月21日付教社第1236号で、遺構の確認された地点については開発計画から除外することが望ましいが、現状変更する場合は、事前に埋蔵文化財発掘届を提出し、記録保存のための発掘調査を実施する必要がある趣旨の回答をした。

これを受け、事業者及び教育委員会の協議の結果、発掘調査は、岡部町遺跡調査会に委託することとなった。事業者よりの発掘届は、平成元年12月６日付で提出された。

発掘調査は、平成元年12月６日から平成元年12月22日にかけて実施された。発掘調査では、事前に確認されていた竪穴住居跡１軒を調査した。住居跡からは、土師器坏・甕・須恵器杯等が出土した。

また、住居跡周辺については、既に大きな攪乱を受けており、遺構を確認することはできなかったが、表土剥ぎの過程において形象・円筒埴輪片が採集された。

## 2. 整理・報告

調査により検出された遺構・遺物の整理・報告書作成作業は、しばらく中断していたが、平成18年度から再開した。

旧岡部町時代において遺物の水洗・復元・実測等は終了していたことから、平成18年４月以降、図面の整理作業、原稿執筆作業を中心に行い、平成18年８月１日から印刷作業に取りかかり、報告書の納品は、平成18年10月31日になされた。

## Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境

### 1. 地理的環境

下道南遺跡は、平成元年の調査時点では、岡部町大字榛沢新田に位置していたが、平成18年1月1日に深谷市、岡部町、川本町、花園町の一市三町が合併し、新「深谷市」がスタートした。ここでは、合併後深谷市の地理的環境を概観する。

荒川以北の深谷市域は、地形的には櫛挽台地、本庄台地、妻沼低地に大きく区分される。

櫛挽台地は、荒川左岸に広がる台地であり、荒川により形成された扇状地形を有する。西部は、藤治川・針ヶ谷堀周辺で本庄台地及び山崎山丘陵と区分され、北端部は、福川付近で妻沼低地と接する。妻沼低地と櫛挽台地の境界付近を東流する福川は、櫛挽台地扇端部の豊富な湧水を集めながら、深谷市北部域の農業用水として現在も重要な位置を占めている。

櫛挽台地の標高は、扇頂部にあたる寄居付近で100m程、扇端部は35～50m程である。また、当台地は、荒川の流路変更により形成された段丘が発達し、その形成過程により、櫛挽面、寄居面に大別される。

櫛挽面は武蔵野面に対比され、旧岡部町、旧深谷市西南部をのせる。台地上には、藤治川、針ヶ谷堀、西川、上唐沢川、押切川、下唐沢川等の中小河川が北流する。これらの河川は、扇央部から扇端部付近の湧水に端を発し、台地を北流する。一見平坦に見える台地上も、現存する中小河川や、その他の埋没谷による緩やかな起伏があり、その景観は、櫛で挽いた如くである。

寄居面は、櫛挽面以降に形成された段丘面である。櫛挽面とは、寄居高校付近から深谷市下郷、境、折之口、上宿へと連なる崖線で区分される。

この寄居面では、ローム層が比較的厚く堆積する段丘面と、その下位にありローム層の堆積が薄いか認められない段丘面に区分される。前者は御威稜ヶ原面として別称される。境界の崖線付近では湧水が随所に認められる。さらに、寄居面形成以降、川本明戸付近を扇頂とする荒川新扇状地が形成される。御稜ヶ原面との境界付近及び扇端部付近は、熊谷市域の重要遺跡が集中する。

本庄台地に相当する地域は、深谷市西端の藤治川・針ヶ谷掘以西の地域（旧岡部町榛沢地区）である。台地上には、見馴川（小山川）・志戸川・女堀等の中小河川が北流しており、この河川の流域は、低地的景観が見られる。

妻沼低地は、利根川及びその支流により形成された広大な低地帯である。南方で本庄台地及び櫛挽台地と接する。旧岡部町北部、旧深谷市北部が該当し、低地内では、中州的に微高地が形成され、遺跡の立地にも大きく関連している。

この他、櫛挽台地と本庄台地の境界付近に山崎山（標高約117m）・諏訪山（標高約109m）、櫛挽面に仙元山丘陵（標高約98m）と呼称される残丘上の小丘陵が存在する。

一方、荒川以南は、旧川本町域南部が該当する。当地域の南半は、江南台地上にのる。江南台地も荒川の流路変更により形成された段丘面であり、扇状地形を有する。

扇頂部付近の寄居町木持付近では標高140m、扇端部の熊谷市原新田付近では標高45mを測る。この段丘面は、江南面と呼称され、櫛挽面以前に形成されたものである。江南面の下段には寄居面が存在する。この段丘面は、櫛挽台地側のそれと対応する。

江南台地上から下段の段丘面（寄居面）にかけて、荒川の支流である吉野川が東流及び北流し、その流域は狭小であるが低地的景観が見られる。

（引用・参考文献）


籠瀬良明 1975「自然堤防」古今書院
川本町　1991「川本町史－通史編」
埼玉県　1978「埼玉県市町村誌第14巻－岡部町」
埼玉県　1986「埼玉県史別編３－自然」
深谷市　1969「深谷市史」
〃　1980「深谷市史－追補編」
寄居町　1986「寄居町史－通史編」

## 2. 歴史的環境

### 1）旧石器時代の遺跡

深谷市域における旧石器時代の遺跡は、確認例が少ないが、江南台地上に位置する白草遺跡では、5ヶ所のブロックが検出されており、細石刃をはじめ荒屋型彫刻刀形石器、角二山型掻器、削器、礫器等が出土した。江南台地上には、この他にも寄居町牛無具利遺跡、江南町寺内、山神、西原遺跡などで旧石器時代の遺物が検出されており、該期の調査例の少ない埼玉県北部地域にあって豊富な内容を有している。さらに、山崎山丘陵上に位置する北坂遺跡でも彫器、ナイフ型石器が検出されているが、ブロック等は確認されていない。

### 2）縄文時代の遺跡

縄文時代の遺跡動向の把握のため、立地条件、遺跡群のまとまりを考慮し、A～Hの地域を設定した（第1図～第4図）。

縄文時代草創期の遺跡は、深谷市域及びその周辺においてA～F地域に散在する（第1図）。A地域は、本庄台地東端部に位置し、見馴川・志戸川合流域にあたる。石蒔A遺跡で、御子柴型石器が、東光寺裏遺跡で、微隆起線文土器が出土した。B地域は、櫛挽台地西端に位置し、藤治川・針ヶ谷堀流域にあたる。当地域の草創期遺跡群は、豊富な内容を有す。西龍ヶ谷遺跡・西谷遺跡・水久保遺跡・沼端遺跡は、多縄文、爪形文土器を出土する遺跡である。C地域は、松久丘陵北縁部から、諏訪山（独立丘陵）にかけての地域である。北坂遺跡では隆起線文、多縄文土器が、如来堂B遺跡では、爪形文、撚糸圧痕文土器が出土した。D地域は、櫛挽台地北東縁から妻沼低地にかけてである。東方城遺跡で有舌尖頭器が出土している。E地域は、櫛挽台地南東縁の地域である。宮林遺跡、沢口遺跡で、該期の遺構が検出されている。この他、土器は検出されていないが、荒川右岸の江南台地上（F地域）において、有舌尖頭器が採集され（上本田地区）、四反歩南遺跡で押圧縄文、矢柄研磨器等が出土した。以上草創期の遺跡分布は、A～F地域において点的に形成される。最も分布密度の濃い地域はB地域である。

縄文時代早期では、B地域において、西龍ヶ谷、西谷、水久保、沼端遺跡が草創期から継続している。また、茶臼山、中原、北東原遺跡が、新たに加わり、前段階に比較し遺跡は増加傾向となる。C・E地域は、大きな変化は見られず、A・D地域は、早期段階の遺跡は調査されていない。

当該期の大きな変化として、F地域の遺跡の調査例が激増する点である。重要な遺跡として、撚糸文期の竪穴住居跡が検出された四反歩南遺跡、萩山遺跡などがあげられる。また、百済木遺跡・白草遺跡では、早期後半段階の炉穴跡が検出されており、舟山遺跡では、早期終末の東海系土器群が出土している。

縄文前・中期は、深谷市域及び隣接地域における遺跡形成のピークにあたる。この段階において櫛挽台地縁辺部周辺（I地域）、櫛挽台地東部の小河川流域（J地域）、荒川左岸西部（H地域）に集落跡の進出が顕著となる。またA～F地域においても規模の大きい集落が存在する。

前期段階では、A地域の宮西遺跡、四十坂遺跡で関山式後半の集落跡が検出されている。G地域においては、むじな塚遺跡、南大塚遺跡等の黒浜期に最盛期を迎える集落が検出されている。諸磯期では、A・H地域において東光寺裏遺跡・台耕地遺跡・塚屋・北塚屋遺跡等の大規模な集落が調査されている。

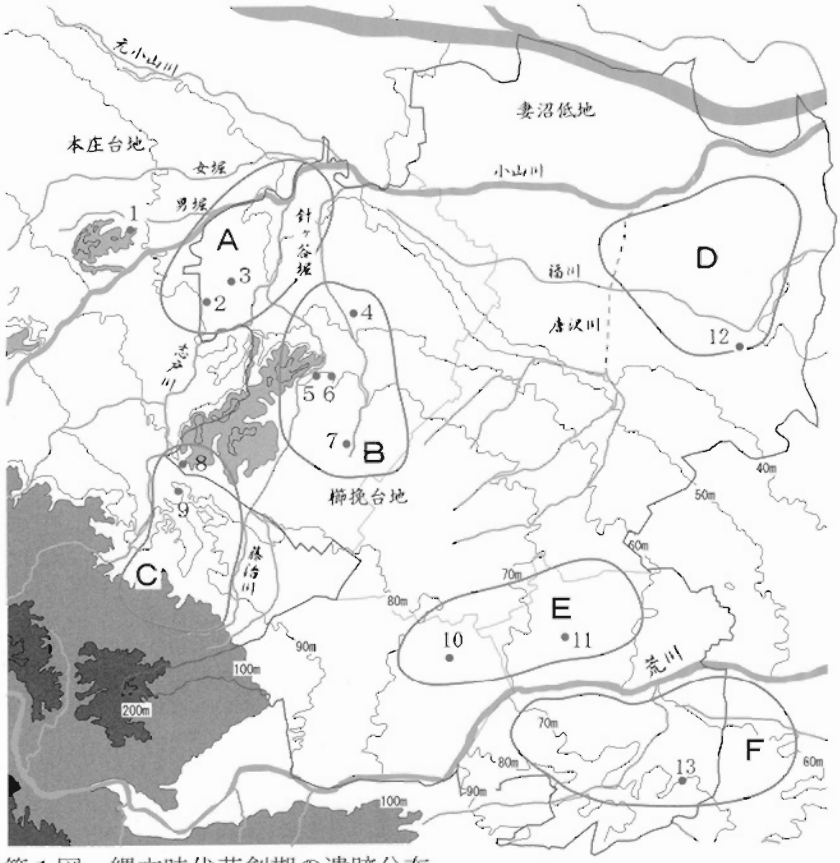
中期段階では、J地域において集落跡の検出例が増加する。小台遺跡、出口・島の上遺跡・萱場松原遺跡などが代表的なものである。これらの遺跡群は、加曽利E式後半段階に盛行する。

縄文時代後・晩期では、D地域における集落跡の検出例が激増する。大きな画期となるのは称名寺～堀之内期にかけてである。当地域の重要な遺跡として明戸東遺跡、新屋敷東遺跡、上敷免遺跡等がある。

その他の地域では、前時代に比較し遺跡数が減少傾向にあり、荒川右岸のF・G地域では、その傾向は顕著である。この中で、東谷遺跡（B地域）、原ヶ谷戸遺跡（I地域）、橋谷、樋ノ下遺跡（H地域）などは、希少な集落遺跡と言えよう。

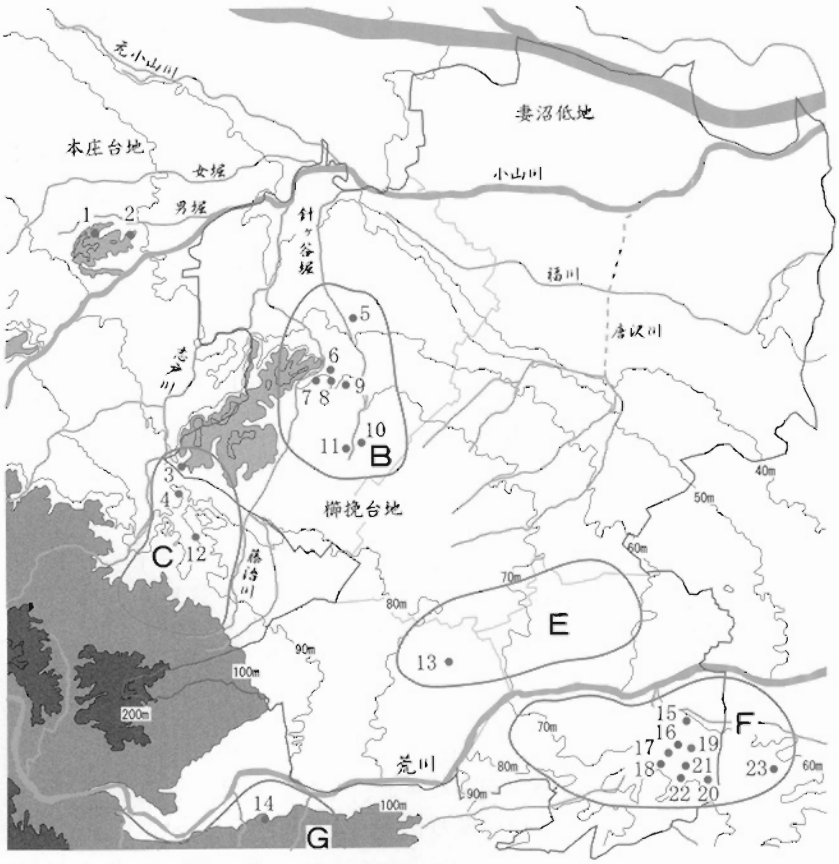
### 3）弥生～古墳時代の遺跡

弥生時代以降については、生業・社会形態の変化等を勘案し縄文時代とは、異なる地域設定を行い深谷市域及びその周辺地域をⅠ～Ⅶ地域に分類した。深谷市域及びその周辺の場合、稲作・畑作・




1　宥勝寺北裏遺跡
2　石蒔A遺跡
3　東光寺裏遺跡
4　西龍ヶ谷遺跡
5　西谷遺跡
6　水久保遺跡
7　沼端遺跡
8　北坂遺跡
9　如来堂B・C遺跡
10　宮林遺跡
11　沢口遺跡
12　東方城遺跡
13　四反歩南遺跡
（※）この他、上本田及び畠山地内において有舌尖頭器の出土が確認されている（川本町1989）。

第1図　縄文時代草創期の遺跡分布




1　大久保山A遺跡
2　宥勝寺北裏遺跡〔本庄市〕
3　北坂遺跡
4　如来堂B・C遺跡
5　西龍ヶ谷遺跡
6　茶臼山遺跡
7　西谷遺跡
8　水久保遺跡
9　中原遺跡
10　北東原遺跡
11　沼端遺跡
12　用土掘込遺跡
13　宮林遺跡
14　甘粕原遺跡
15　舟山遺跡
16　竹之花遺跡
17　白草遺跡
18　円阿弥遺跡
19　荷鞍ヶ谷戸遺跡
20　百済木遺跡
21　万願寺遺跡
22　四反歩南遺跡
23　萩山遺跡

第2図　縄文時代早期の遺跡分布

0　5km

窯業・鉄生産などの生業形態が、各地域ごとに遺跡の動向に大きく反映するものと考える。(第５図～第12図)。また、今回設定した地域内部にも遺跡のまとまりが確認でき、これらはさらに小規模な遺跡群として把握できるが、今回は、この次元での記述は行わないこととする。

(Ⅰ地域)

櫛挽台地北縁部から妻沼低地にかけての地域であり、福川上流域にあたる。

弥生時代では、四十坂遺跡、樋詰遺跡、森下遺跡、上敷免森下遺跡などで調査が行われている。

特に、四十坂遺跡、上敷免遺跡は、弥生時代前期末～中期にかけての土器群が検出された遺跡として著名である。この点は、当地域が弥生文化波及の先進的役割を果たしたことを示す。

古墳時代前期の遺跡は、矢島南遺跡、起会遺跡、戸森松原遺跡、深谷町遺跡がある。これらの遺跡は、比較的小規模で、地域内において分散的である。また、該期の墳墓では、四十坂遺跡、上敷免遺跡で周溝墓が検出された。

古墳時代中期では、遺跡は増加傾向にある。集落跡では、上敷免遺跡、森下遺跡、戸森前遺跡、起会遺跡、矢島南遺跡、岡部条里遺跡、砂田前遺跡等で、竪穴住居跡が検出されているが、いずれも小規模な集落跡と推定される。

墳墓では、戸森松原遺跡で、方墳～円墳にいたる古墳群が検出されている。中宿遺跡、四十坂遺跡でも該期の方墳が検出された。

古墳時代後期初頭には、集落の規模が拡大する現象を看取することができる。上敷免遺跡、森下遺跡、戸森前遺跡、起会遺跡、矢島南遺跡、樋詰遺跡、岡部条里遺跡、砂田前遺跡、中宿遺跡、上宿遺跡で竪穴住居跡が検出された。砂田前遺跡、上敷免遺跡は、大規模な集落跡である。

当地域の古墳群には櫛挽台地上の四十塚古墳群、白山古墳群が代表的である。四十塚古墳群は、前期～中期の墳墓群を経て後期古墳群へと展開する。四十塚古墳は、横矧板鋲留短甲、五鈴付鏡板、鉄斧等が昭和初期に出土した。古墳築造時期は、５世紀末頃の年代が想定される。当古墳群展開の重要な画期を示す古墳である。

白山古墳群の開始年代については、榛名山二ツ岳の火山灰降下前に開始されていることは明確である。帆立貝式古墳である17号墳は、古墳群の中では唯一帆立貝の墳形を有す古墳であり、古墳群開始期のものと想定される。

当古墳群の成立期は、近接する砂田前遺跡で集落が拡大する現象と重なることを勘案すると両者は、対応関係にあるものと想定する。さらに６世紀後半頃には、後の榛沢郡域では最大級の寅稲荷塚古墳（前方後円墳・51m）が築造されることから、Ⅰ地域の優位性が確認できる。その後、四十塚古墳群から、やや距離を置き、お手長山古墳(帆立貝式古墳･49.5m)、内出八幡塚古墳(円墳33m)、愛宕山古墳（方墳・37m）と有力な古墳が築造される。この点は、榛沢評家形成の前提となるものであろう。

妻沼低地側の古墳群では戸森古墳群、上敷免古墳群が存在するが、内容については明確ではない。

(Ⅱ地域)

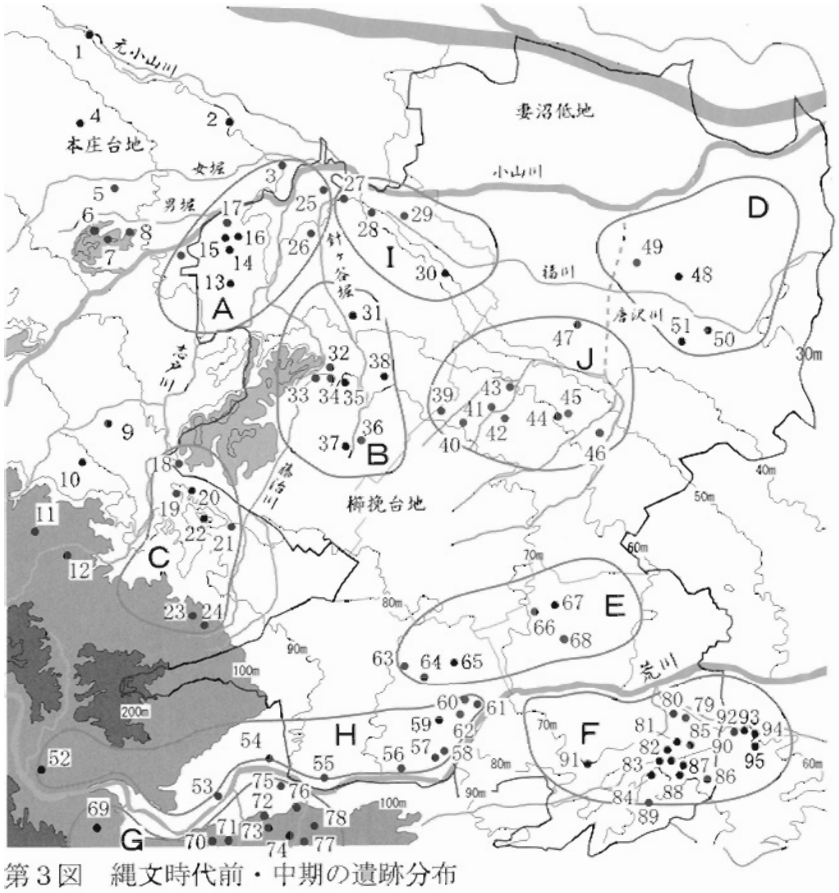
本庄台地東縁部であり、小山川・志戸川・針ヶ谷堀の合流域にあたる。当地域は、古代児玉・那珂郡域に接する地域である。

弥生時代では大寄遺跡から、中期～後期にかけての土器群が出土している。

古墳時代前期の集落跡は濃密に分布する。この点は、Ⅰ地域の状況とは明らかに異なり、むしろ西方の児玉地域との関係の上で考える必要がある。水窪遺跡、原ヶ谷戸遺跡、六反田遺跡、石蒔Ａ遺跡、地神祇遺跡、宮西遺跡、西浦北遺跡などから竪穴住居跡・溝跡等が検出されている。これらの遺跡は、水窪遺跡を除き、中期～後期へと連続・発展するものであり、当地域は古墳時代を通じ、各集落の立地が比較的限定され、安定した居住域となっていたことを示す。

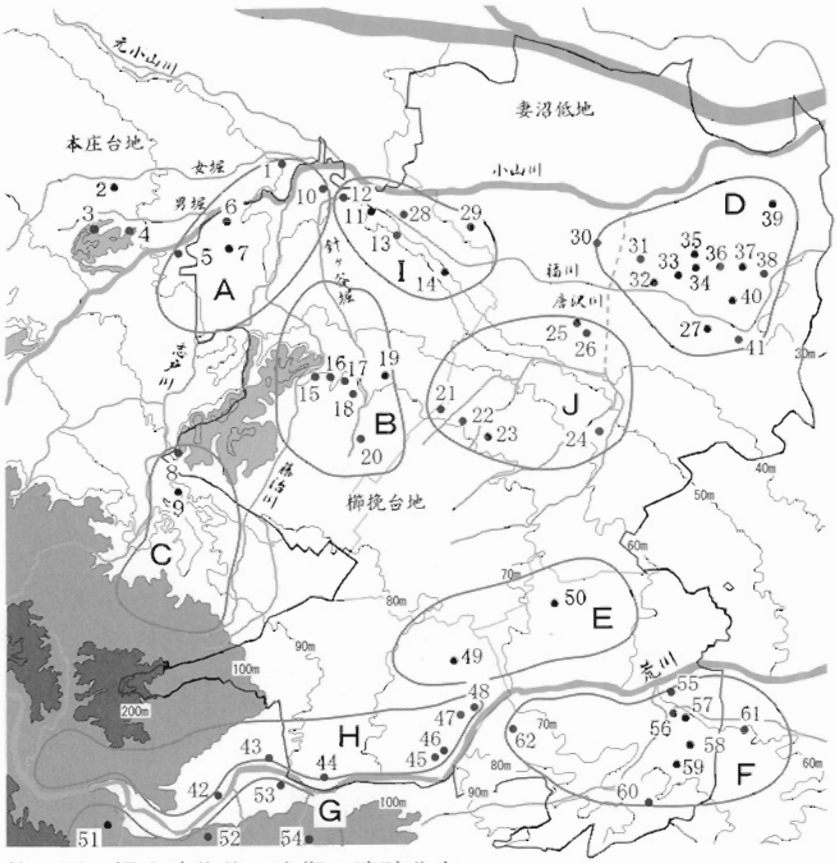
古墳時代前期の墳墓では、石蒔Ｂ遺跡、大寄遺跡、沖田Ⅲ遺跡などで周溝墓が検出されている。石蒔Ｂ遺跡では前方後方形周溝墓を含む11基の周溝墓が調査された。前方後方形周溝墓は、村後、塚本山、南志渡川遺跡など古代児玉・那珂郡域に散見される形態の周溝墓であり、この点からも当地域との関係の深さを看取することができる。

古墳群については集落跡の豊富さと比較し乏しいといわざるを得ない。僅かな調査例として東光寺裏遺跡・宮西遺跡で周溝の一部が検出されている。東京国立博物館所蔵品の中には、伝榛沢古墳群出土品がある。以上の状況から、大規模な古墳群が、現在の後榛沢、榛沢集落と重なる位置に存在していた可能性が高い。また、榛沢集落内には、墳丘上の高まりのある地点もあり、埴輪が採集さ




第３図　縄文時代前・中期の遺跡分布

1 小島遺跡
2 諏訪新田遺跡
3 東五十子遺跡
4 二本松遺跡
5 公卿塚古墳
6 大久保山Ａ遺跡
7 大久保山Ｂ遺跡
8 宥勝寺北裏遺跡
9 南志渡川遺跡
10 北貝戸遺跡
11 白石古墳群
登戸地区
12 白石城
13 東光寺裏遺跡
14 宮西遺跡
15 沖田Ⅰ～Ⅲ遺跡
16 西浦北遺跡
17 大寄遺跡
18 北坂遺跡
19 甘粕山
20 沼下遺跡
21 中井丘
(山井ノ岡遺跡)
22 中山遺跡
23 用土高城遺跡
24 用土北沢遺跡
25 原ヶ谷戸遺跡
26 水窪遺跡
27 四十坂遺跡
28 上宿遺跡
29 砂田前遺跡
30 菅原遺跡
31 西龍ヶ谷遺跡
32 茶臼山遺跡
33 西谷遺跡
34 水久保遺跡
35 中原遺跡
36 北東原遺跡
37 沼端遺跡
38 芝山遺跡
39 出口遺跡
40 島の上遺跡
41 新田遺跡
42 山根遺跡
43 菅場松原遺跡
44 割山西遺跡
45 割山遺跡
46 小台遺跡
47 深谷町遺跡
48 本郷前東遺跡
49 上敷免遺跡
50 根岸遺跡
51 常磐町東遺跡
52 城見上遺跡
53 樋の上遺跡
54 塚屋・北塚屋遺跡
(中小前田1･2遺跡)
55 橋屋遺跡
56 花園町№50遺跡
57 上南原遺跡
58 台耕地遺跡
59 上南原下遺跡
60 下南原遺跡
61 下南原東遺跡
62 宮台遺跡
63 西上遺跡
64 東大塚遺跡
65 宮林遺跡
66 大林Ⅰ遺跡
67 大林Ⅱ遺跡
68 沢口遺跡
69 梅沢遺跡
70 氷川台遺跡
71 薬師台遺跡
72 甘粕原遺跡
73 ゴシン遺跡
74 露梨子遺跡
75 羽毛田遺跡
76 日向上遺跡
77 上郷西遺跡
78 むじな塚遺跡
79 山の腰遺跡
80 舟山遺跡
81 竹之花遺跡
82 白草遺跡
83 网阿弥遺跡
84 権現堂遺跡
85 荷鞍ヶ谷戸遺跡
86 百済木遺跡
87 四反歩東遺跡
88 四反歩南遺跡
89 焼谷遺跡
90 北篠場遺跡
91 上本田遺跡
92 姥ヶ沢遺跡
93 富士山遺跡
94 権現坂遺跡
95 北方遺跡




第４図　縄文時代後・晩期の遺跡分布

1 東五十子遺跡
2 公卿塚古墳
3 大久保山Ａ遺跡
4 宥勝寺北裏遺跡
5 古川端遺跡
6 大寄遺跡
7 宮西遺跡
8 北坂遺跡
9 甘粕山
10 原ヶ谷戸遺跡
11 四十坂遺跡
12 上宿遺跡
13 砂田前遺跡
14 菅原遺跡
15 西谷遺跡
16 水久保遺跡
17 中原遺跡
18 東谷遺跡
19 芝山遺跡
20 北東原遺跡
21 出口遺跡
22 島の上遺跡
23 前畠遺跡
24 小台遺跡
25 深谷町遺跡
26 侍町遺跡
27 根岸遺跡
28 砂田前遺跡
29 矢島南遺跡
30 森下遺跡
31 上敷免遺跡
32 八日市遺跡
33 本郷前東遺跡
34 新屋敷東遺跡
35 上敷免北遺跡
36 新田裏遺跡
37 明戸東遺跡
38 原遺跡
39 砂田遺跡
40 宮ヶ谷戸遺跡
41 城下遺跡
42 樋ノ下遺跡
43 塚屋・北塚屋遺跡
(中小前田1･2遺跡)
44 橋屋遺跡
45 上南原遺跡
46 台耕地遺跡
47 宮台遺跡
48 下南原東遺跡
49 宮林遺跡
50 大林Ⅰ遺跡
51 梅沢遺跡
52 八幡台遺跡
53 羽毛田遺跡
54 上郷西遺跡
55 鹿島古墳群内
56 山の腰遺跡
57 荷鞍ヶ谷戸遺跡
58 四反歩北遺跡
59 四反歩東遺跡
60 焼谷遺跡
61 富士山遺跡
62 畠山重忠館跡

0　5km

れていることも、この傍証となる。

(Ⅲ地域)

櫛挽台地西縁部であり、藤治川・針ヶ谷堀上流～中流域にあたる。藤治川は、遺跡、地形のあり方から古代では山河地区付近で針ヶ谷堀と合流していたと考えられる。当地域北端は、この合流域周辺とする。また、藤治川上流域では、寄居町との境界付近で東藤治川、西藤治川と２本の川筋がある。藤治川左岸には、山崎山・諏訪山丘陵があり、古代那珂郡域に接する。

弥生時代の遺跡として用土平遺跡がある。当遺跡は、弥生時代中期の環濠集落であり学史上名高い。

古墳時代前期の遺跡として西藤治川右岸に南藤田遺跡がある。遺跡は、古墳時代後期まで連続し、当地域では中核的な集落である。また、山崎山丘陵上の玄蕃谷遺跡は、３軒の竪穴住居跡から豊富な土器群が出土した。

古墳時代後期の遺跡では西藤治川上流域に調査例が増加する。前述の南藤田遺跡の他、用土前峯、用土台、用土北沢、出羽塚遺跡で集落跡が検出された。この他、藤治川下流域では、柳原遺跡で竪穴住居跡が検出されている。

古墳時代前期から中期にかけての墳墓群では、山崎山丘陵北縁に、千光寺遺跡があり、周溝墓から台状墓への変遷が確認されている。同丘陵上には、数多くの墳墓・古墳が築造されている。千光寺遺跡と同様に周溝墓～古墳移行期の遺跡として狢山古墳群が存在する。

当古墳群では、方墳１基の確認調査が実施されている。また、安光寺１～２号墓も該期の遺跡として重要である。この他に、西山古墳群、諏訪山古墳群がある。それぞれ西山５号墳、諏訪山古墳という前方後円墳が確認されている。これらの古墳群は、立地等から那珂郡域の集落や生産基盤を置く集団に対応するものと想定する。この他、西藤治川上流域では、用土北沢遺跡で古墳時代前期の周溝墓群が検出されている。

古墳時代後期の古墳群では、藤治川上流域に飯塚古墳群、下流域では、千光寺古墳群、茶臼山古墳群が存在する。飯塚古墳群については、その内容は明確ではない。千光寺古墳群では、帆立貝式古墳である千光寺１号墳がある。茶臼山古墳群では、その出土品の一部が東京大学に保管されている。先述のⅠ～Ⅱ地域に比較し、総じて遺跡は分散的に存在する。

集落・墳墓以外の遺跡として狢山祭祀遺跡がある。古墳時代中期の遺跡であり、出土遺物として土器、土製品、馬歯等がある。この中で土製品の内容は、豊富であり、人形、馬形、鏡、弓、竪杵、杓子などがある。当遺跡の立地する地点は、古代那珂郡との郡境に近い位置にある丘陵頂部であり、坂・境に関わる祭祀がなされたと考えられる。

(Ⅳ地域)

荒川左岸域の地域である。西部をⅣａ地域、東部をⅣｂ地域とした。Ⅳａ地域は、上武山地を含む。Ⅳｂ地域は、背後に櫛挽台地の遺跡空白帯が存在する。

(Ⅳａ地域) 当地域では、現在のところ弥生～古墳時代中期の遺跡は確認されていない。このことから、初期農耕社会の段階では、居住域としては不向きな地域であったことは明確である。古墳時代後期に至り、小前田古墳群が成立する。対応する集落は、未検出である。また末野窯跡群の開窯は、現在のところ５世紀末～６世紀前半段階が確実なところとなっている。該期から平安時代に至るまで当地域は、窯場としての役割を担うこととなる。

(Ⅳｂ地域) Ⅳａ地域同様、遺跡の存在は希薄であるが、台耕地遺跡において古墳時代前期の集落跡が調査されたことは特筆される。古墳時代後期に至ると黒田古墳群、見目古墳群、長在家古墳群がある。黒田古墳群の場合、台耕地遺跡周辺に対応する集落が存在する可能性がある。見目、長在家古墳群と周辺の集落遺跡の対応関係は明確ではない。

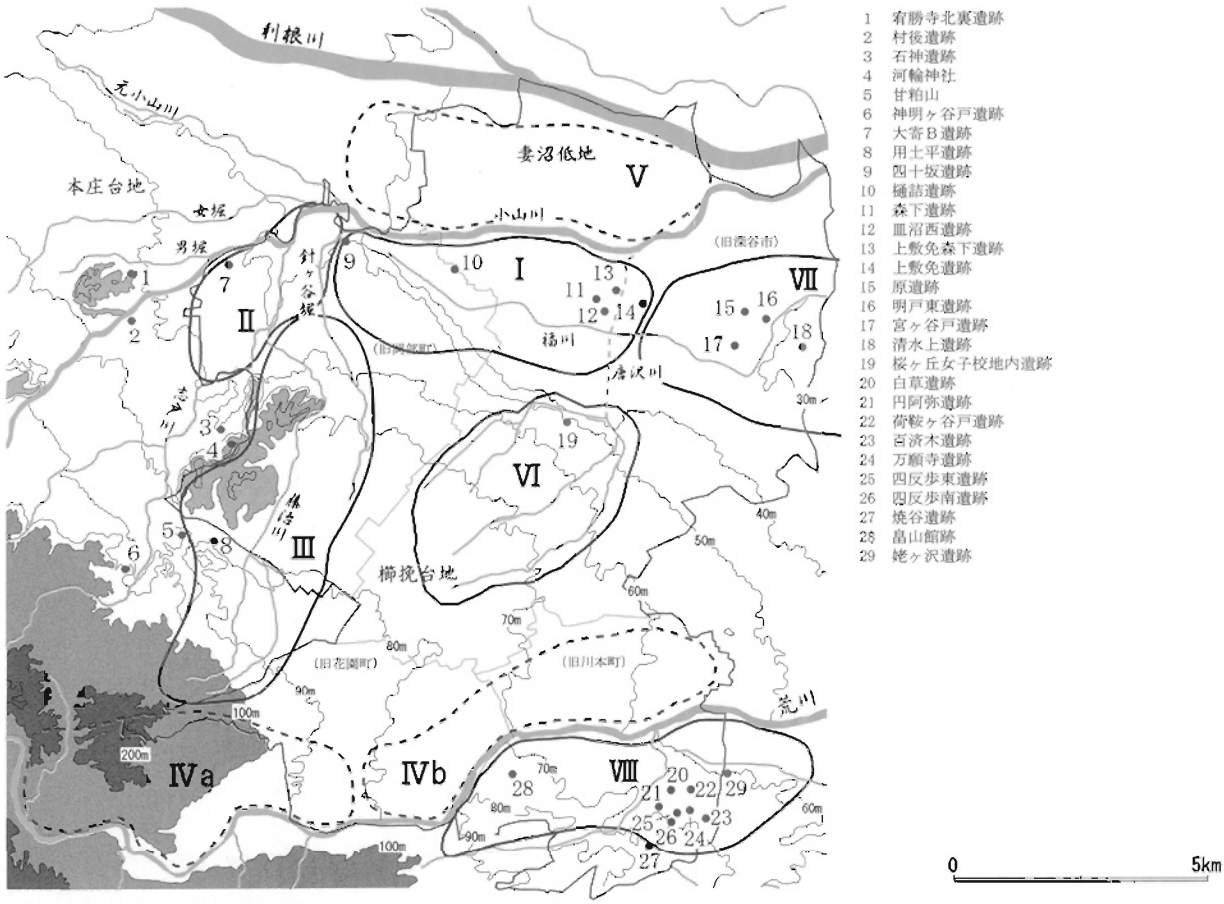
(Ⅴ地域)

小山川左岸から利根川にかけての地域である。当地域では、下手計西浦遺跡からＳ字状口縁台付甕を出土する土壙が検出され、祭祀に関るものと推定されている。当遺跡では古墳時代後期の古墳跡４基が調査されており、周辺に対応する集落の存在が予測される。町田西遺跡では、古墳時代後期の集落跡が検出されている。

当地域は、利根川を挟み対岸は上毛野国であり、下手計西浦・町田西両遺跡は水陸交通上の拠点に位置する遺跡と言える。

(Ⅵ地域)

櫛挽台地中央部の西川、上唐沢川、押切川、下唐沢流域である。遺跡の存在は希薄であり調査例も少ない。




第５図　弥生時代の遺跡分布

第６図　藤治川中流域の状況（深谷市本郷）

弥生時代では、桜ヶ丘女子高地内遺跡より弥生時代後期の土器が検出されている。近接して萱場古墳群が存在する。割山遺跡では、埴輪窯が検出されている。

(Ⅶ地域)

櫛挽台地東部から妻沼低地にかけての地域であり福川中流域にあたる。Ⅰ地域とは地形・水利等の面で大きな隔たりはなく、同一の地域として把握することも可能であるが、古代以降は、それぞれ榛沢・幡羅の両郡に分かれて編成されことは確実である。この編成は、古墳時代からの地域区分の伝統上にあると推定する。

当地域における弥生時代の遺跡として明戸東、原遺跡、宮ヶ谷戸遺跡などがある。これらの遺跡は、中期後半から後期にかけてのものである。

古墳時代前期の遺跡として明戸東遺跡、宮ヶ谷戸遺跡、清水の上遺跡がある。該期の墳墓として、東川端遺跡で周溝墓６基が検出されている。

古墳時代中期の遺跡として、居立遺跡、原遺跡、東川端遺跡、宮ヶ谷戸遺跡、新田裏遺跡があげられるが小規模な集落が多い。該期の墳墓は確認されていない。古墳時代後期に至ると集落は増加し、その規模も飛躍的に拡大する。この現象は、Ⅰ地域での集落規模拡大と連動するものであろう。前遺跡、居立遺跡、城北遺跡、八日市遺跡、新屋敷東遺跡などが中核的集落として新規に出現するか、規模を拡大する。古墳群では、木の本古墳群、上増田古墳群、宮ヶ谷戸古墳群などがあり、これらは、前述の集落遺跡に対応する古墳群である。

(Ⅷ地域)

荒川右岸に位置する。江南台地及び低位段丘面(寄居面)に遺跡が確認されている。

弥生時代の遺跡は、畠山重忠館跡、白草遺跡、円阿弥遺跡、荷鞍ヶ谷戸遺跡、百済木遺跡、万願寺遺跡、四反歩南遺跡、東遺跡、焼谷遺跡、姥ヶ沢遺跡で確認されている。特に江南台地上の諸遺跡は、吉ヶ谷式を出土する後期に盛行する集落である。

古墳時代前期の集落は、前代に比較し減少する。円阿弥遺跡、白草遺跡、富士山遺跡等が確認されている。円阿弥・白草遺跡は、古墳時代中期まで継続する。前期から中期の墳墓は検出されていない。

古墳時代中期終末から後期に至ると低位の段丘面(寄居面)に集落が確認できるようになる。

如意遺跡は、古墳時代後期から平安時代まで継続する拠点的遺跡であり、周囲にも如意南遺跡、川端遺跡、畠山館跡において該期の集落跡が検出されている。また、やや距離を置き、鹿島遺跡がある。江南台地上では、権現堂遺跡、権現坂遺跡、宮下遺跡等で集落跡が調査されている。

当地域の後期群集墳には、塚原古墳群、鹿島古墳群、箱崎古墳群、上大塚古墳群、清水山古墳群姥ヶ沢古墳群等がある。

特に、低位段丘面に爆発的に築造される古墳群が目を引き、この点は、集落の増加現象と合致するものであろう。

3. 飛鳥～奈良・平安時代

地域区分については、弥生～古墳時代と同じである。以下地域ごとに記述する(第13図)

(Ⅰ地域)

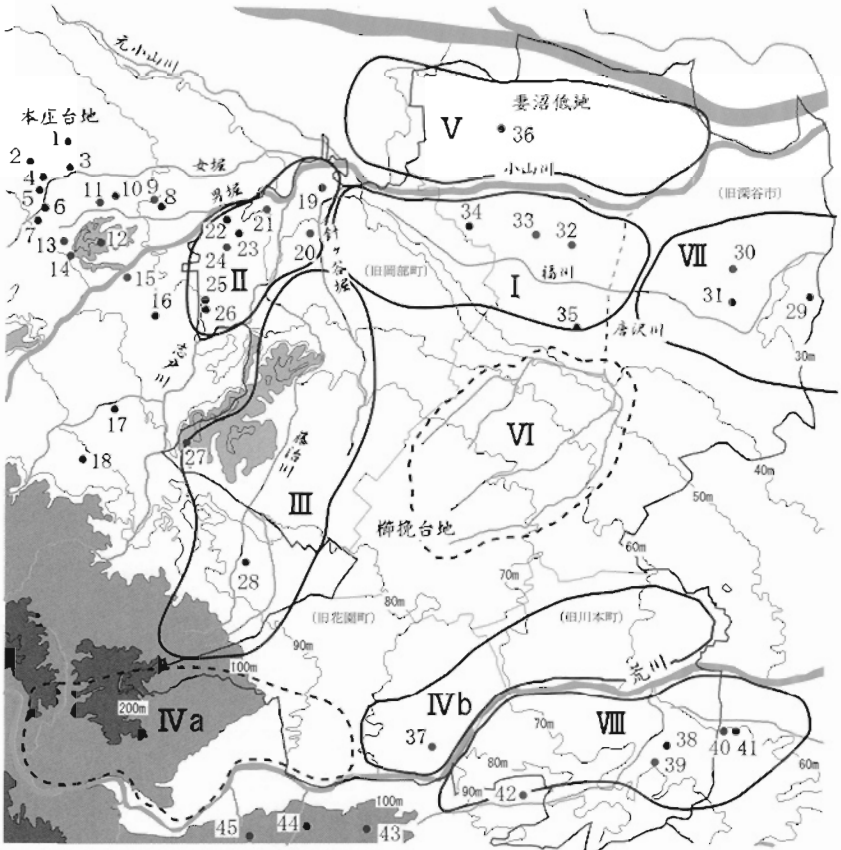
７世紀後半段階では、櫛挽台地北縁に榛沢評家が成立する。その原動力となったのは、古墳時代後期に有力墳墓を築造した在地首長層である。成立時期は、７世紀第３四半期頃であり、熊野遺跡内で検出された大型建物群等が、評家を構成する施設群となる。この時期、白山、上宿、新田等の諸集落が新規に出現するか、規模を拡大する。

中宿遺跡では、７世紀末～８世紀初頭以降倉庫群の建造がはじまり、榛沢郡正倉と考えられる。郡庁院については、中宿遺跡南方の地点が有力であるが、現状では調査できない状況である。この時期台地直下の滝下遺跡では大溝(滝下河川跡)の掘削が開始される。

８世紀前半では、中宿遺跡の東方に岡廃寺が建立される。岡廃寺は、９世紀第１四半期まで存続するが、この段階以降、寺域に竪穴住居跡が進出する。８世紀中頃から後半にかけて低地部に条里型地割が形成されるが、集落遺跡も点在する。低地部の集落遺跡として砂田前遺跡、矢島南遺跡、岡部条里遺跡、樋詰遺跡、起会遺跡、戸森前遺跡、森下遺跡、上敷免遺跡などがあげられる。

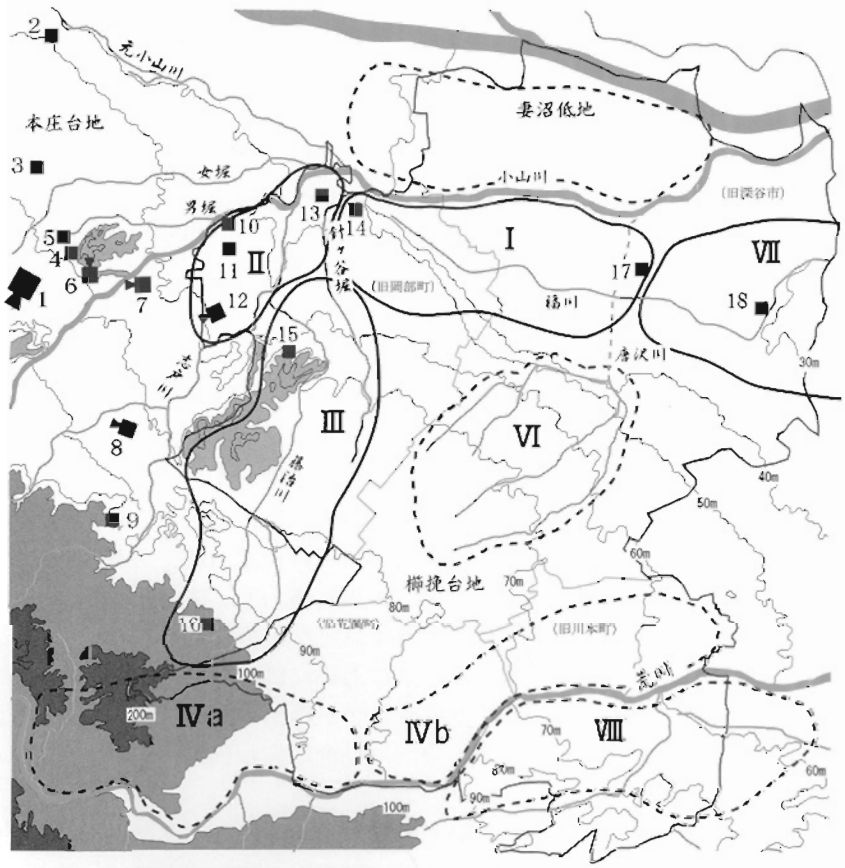
中宿遺跡正倉群周辺には10世紀後半～11世紀代にかけて竪穴住居跡が進出することから、この頃には正倉の機能は完全に失われていたものと思われる。

熊野遺跡では、７世紀末以降、官衙的施設は検出されず、郡家に集う人々の集落としての性格を




1 社具路遺跡
2 諏訪遺跡
3 西富田・四方田条里遺跡
4 地神・塔頭遺跡
5 今井条里遺跡
6 後張遺跡
7 川越田遺跡
8 久下前遺跡
9 久下東遺跡
10 七色塚遺跡
11 下田遺跡
12 大久保山遺跡
13 飯玉東遺跡
14 雷電下遺跡
15 村後遺跡
16 日の森遺跡
17 南志渡川遺跡
18 北貝戸遺跡
19 原ヶ谷戸遺跡
20 水窪遺跡
21 六反田遺跡
22 大寄遺跡
23 西浦北遺跡
24 宮西遺跡
25 石蒔遺跡
26 地神祇遺跡
27 山崎山遺跡
28 南藤田遺跡
29 清水上遺跡
30 明戸東遺跡
31 宮ヶ谷戸遺跡
32 戸森松原遺跡
33 起念遺跡
34 矢島南遺跡
35 深谷町遺跡
36 下手計西浦遺跡
37 台耕地遺跡
38 白草遺跡
39 円阿弥遺跡
40 蛯ヶ沢遺跡
41 権現坂遺跡
42 塚田赤木遺跡
43 伊勢原遺跡
44 むじな塚遺跡
45 東遺跡

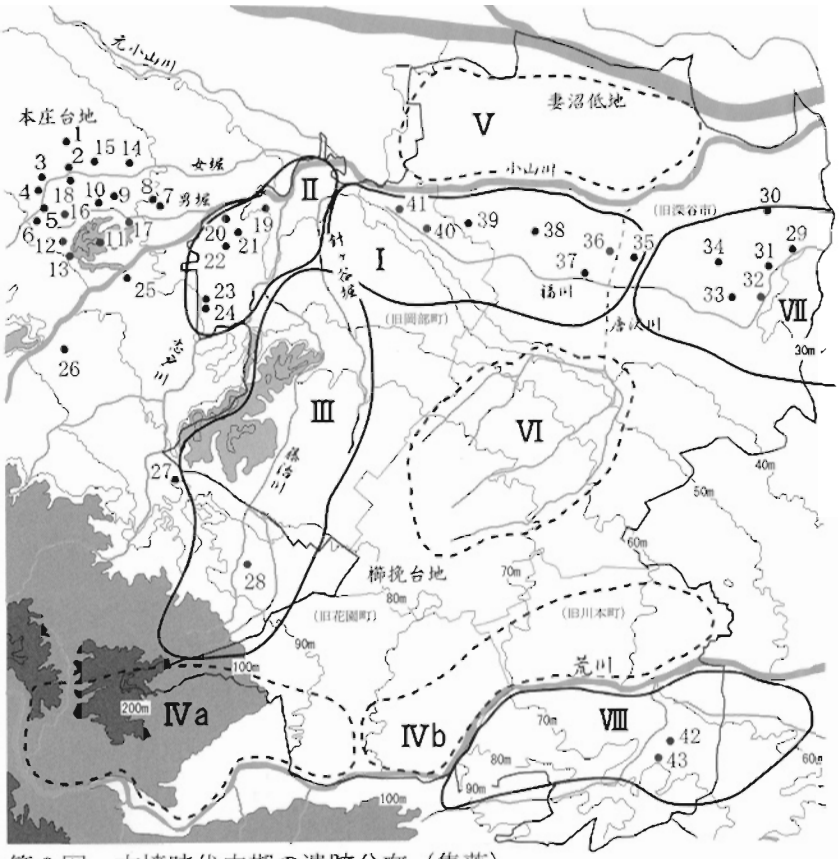
第７図　古墳時代前期の遺跡分布（集落）




1 鷲山古墳
2 旭・小島古墳群
3 諏訪遺跡
4 雷電下遺跡
5 飯玉東遺跡
6 塚本山古墳群
7 村後遺跡
8 南志渡川遺跡
9 神明ヶ谷戸遺跡
10 大寄Ｂ遺跡
11 沖田Ⅲ遺跡
12 石蒔Ｂ遺跡
13 原ヶ谷戸遺跡
14 四十坂遺跡
15 千光寺遺跡
16 用土北沢遺跡
17 上敷免遺跡
18 東川端遺跡

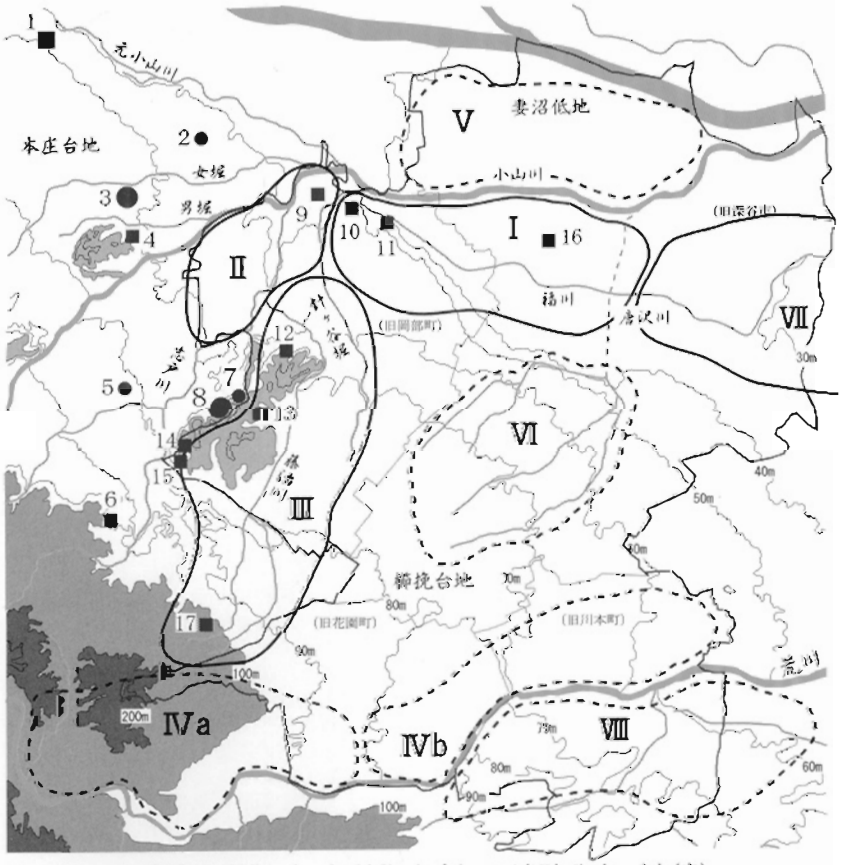
第８図　古墳時代前期の遺跡分布（墳墓）

0　　5km




1 社具路遺跡
2 西富田・四方田条里遺跡
3 地神・塔頭遺跡
4 今井条里遺跡
5 後張遺跡
6 川越田遺跡
7 久下前遺跡
8 久下東遺跡
9 七色塚遺跡
10 下田遺跡
11 大久保山遺跡
12 飯玉東遺跡
13 雷電下遺跡
14 笠ヶ谷戸遺跡
15 雌堀遺跡
16 四方田遺跡
17 東谷遺跡
18 九反田遺跡
19 六反田遺跡
20 大寄遺跡
21 西浦北遺跡
22 宮西遺跡
23 石蒔遺跡
24 地神祇遺跡
25 村後B遺跡
26 北谷戸遺跡
27 甘粕山
28 南藤田遺跡
29 居立遺跡
30 砂田遺跡
31 原遺跡
32 東川端遺跡
33 宮ヶ谷戸遺跡
34 新田裏遺跡
35 上敷免遺跡
36 森下遺跡
37 戸森前遺跡
38 起会遺跡
39 矢島南遺跡
40 岡部条里遺跡
41 砂田前遺跡
42 白草遺跡
43 円阿弥遺跡

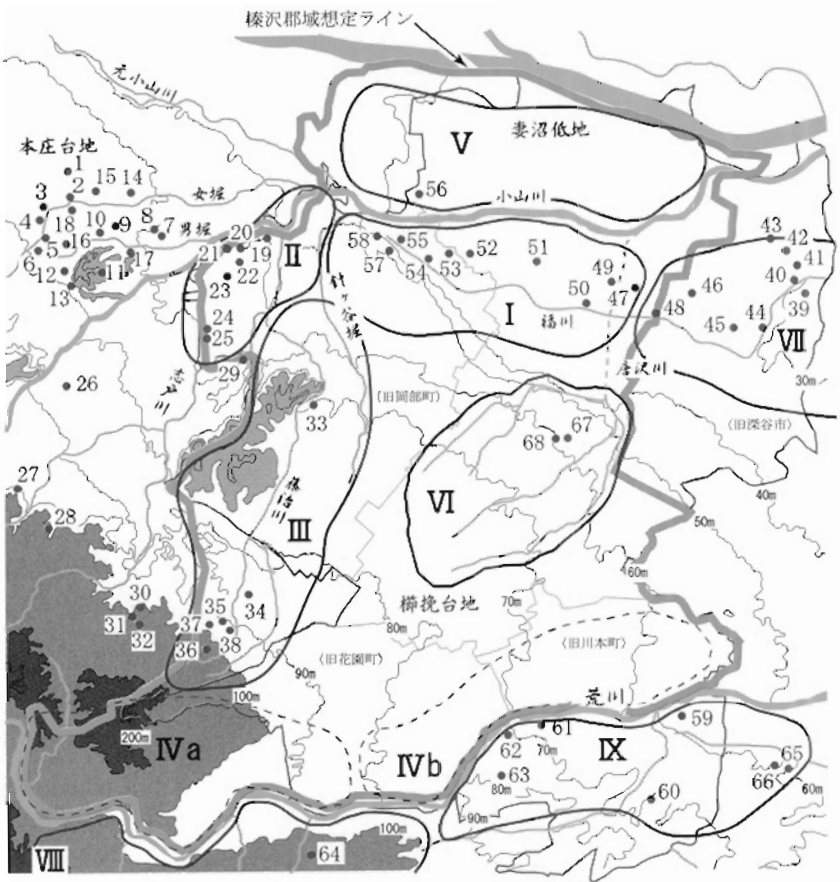
第９図　古墳時代中期の遺跡分布（集落）




1 旭・小島古墳群
2 塚合古墳群
3 公卿塚古墳
4 前山２号墳
5 志戸川古墳
6 神明ヶ谷戸遺跡
7 長坂聖天塚古墳
8 河輪聖天塚古墳
9 原ヶ谷戸遺跡
10 四十坂遺跡
11 中宿遺跡
12 千光寺遺跡
13 狐山古墳群
14 山崎山遺跡
15 安光寺古墳群
16 戸森松原遺跡
17 用土北沢遺跡

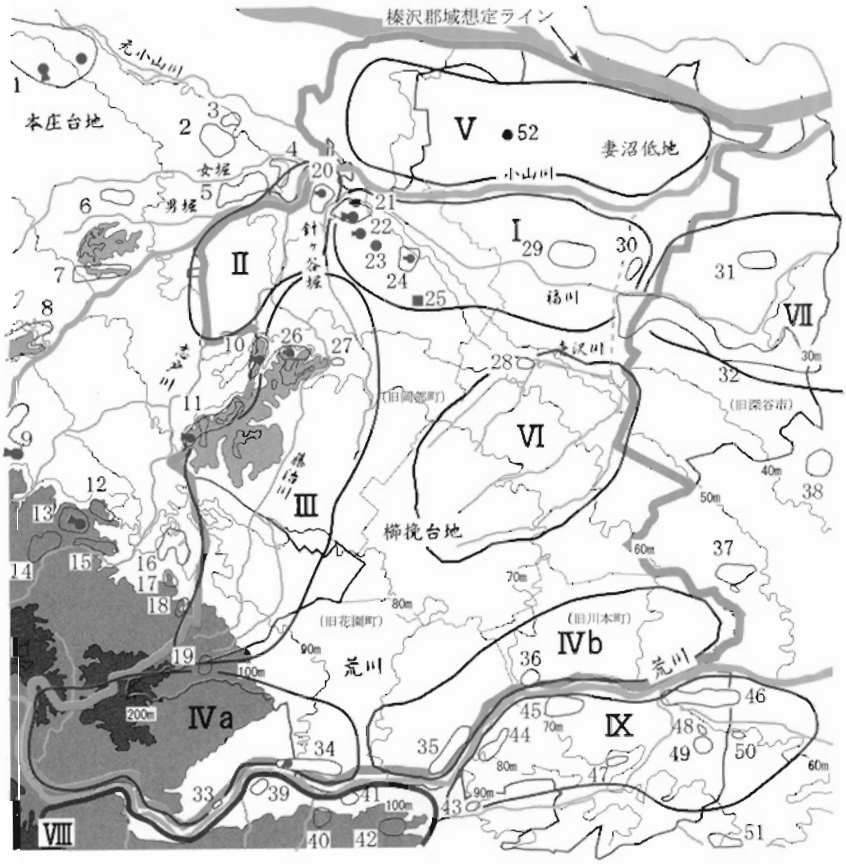
0　5km

第10図　古墳時代中期（一部前期末含）の遺跡分布（古墳）




1 社具路遺跡
2 西富田・四方田条里遺跡
3 地神・塔頭遺跡
4 今井条里遺跡
5 後張遺跡
6 川越田遺跡
7 久下前遺跡
8 久下東遺跡
9 七色塚遺跡
10 下田遺跡
11 大久保山遺跡
12 飯玉東遺跡
13 雷電下遺跡
14 笠ヶ谷戸遺跡
15 雌堀遺跡
16 四方田遺跡
17 東谷遺跡
18 九反田遺跡
19 六反田遺跡
20 稲荷塚遺跡
21 大寄遺跡
22 西浦北遺跡
23 宮西遺跡
24 石蒔遺跡
25 地神祇遺跡
26 樋の口遺跡
27 ミカ神社前遺跡
28 宇佐久保遺跡
29 白欠遺跡
30 鍛冶屋峯遺跡
31 川向遺跡
32 森後遺跡
33 柳原遺跡
34 南藤田遺跡
35 用土前峯遺跡
36 用土北沢遺跡
37 用土台遺跡
38 出羽塚遺跡
39 前遺跡
40 居立遺跡
41 城北遺跡
42 柳町遺跡
43 砂田遺跡
44 東川端遺跡
45 宮ヶ谷戸遺跡
46 新屋敷東/本郷前遺跡
47 上敷免遺跡
48 八日市遺跡
49 森下遺跡
50 戸森前遺跡
51 起会遺跡
52 矢島南遺跡
53 樋詰遺跡
54 岡部条里遺跡
55 砂田前遺跡
56 町田西遺跡
57 中宿遺跡
58 上宿遺跡
59 鹿島遺跡
60 権現堂遺跡
61 川端遺跡
62 如意・如意南
63 畠山館跡
64 むじな塚遺跡
65 宮下遺跡
66 権現堂遺跡
67 割山遺跡
68 割山西遺跡

第11図　古墳時代後期の遺跡分布（集落・その他）

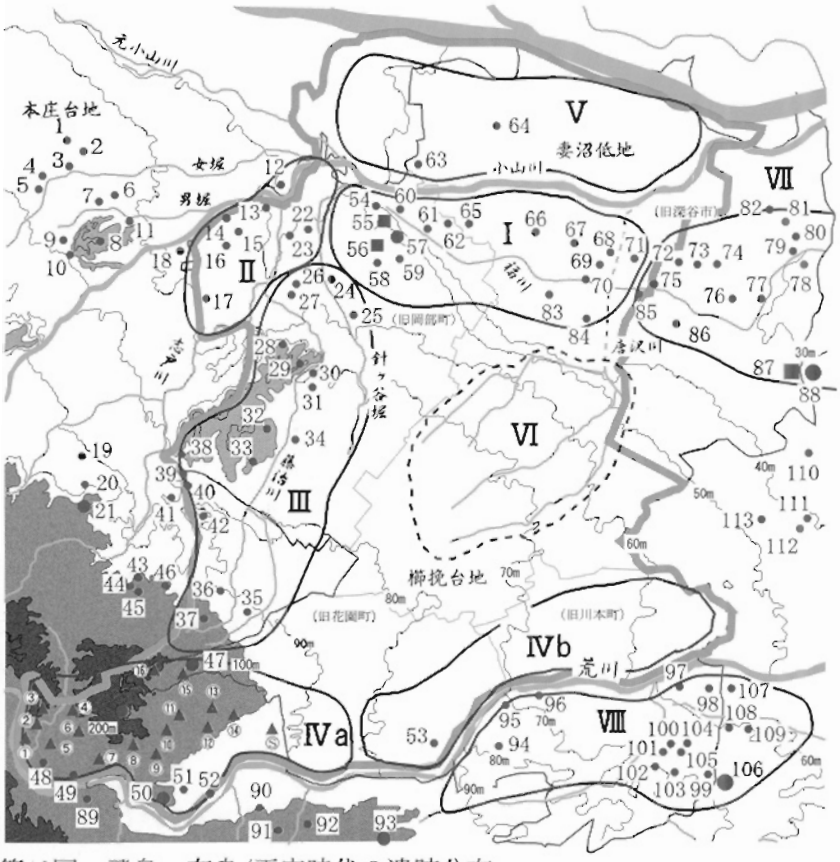



1 旭・小島古墳群
2 塚合古墳群
3 御堂坂古墳群
4 東五十子遺跡（古墳群）
5 西五十戸古墳群
6 東富田古墳群
7 塚本山古墳群
8 生野山古墳群
9 広木大町古墳群
10 西山古墳群
11 諏訪山古墳群
12 中里天神山古墳群
13 大仏古墳群
14 白石古墳群
15 羽黒山古墳群
16 普門寺古墳群
17 猪俣北古墳群
18 猪俣古墳群
19 飯塚古墳群
20 原ヶ谷戸古墳群
21 四十塚古墳群
22 お手長山古墳
23 内出八幡塚古墳
24 白山古墳群
25 愛宕山古墳
26 千光寺古墳群
27 茶臼山古墳群
28 萱場古墳群
29 戸森古墳群
30 上敷免古墳群
31 上増田古墳群
32 木ノ本古墳群
33 樋ノ下古墳群
34 小前田古墳群
35 黒田古墳群
36 見目古墳群
37 三ヶ尻古墳群
38 玉井古墳群
39 立ヶ瀬古墳群
40 上郷古墳群
41 小園古墳群
42 伊勢原古墳群
43 赤浜古墳群
44 箱崎古墳群
45 塚原古墳群
46 鹿島古墳群
47 上大塚古墳群
48 平方前古墳群
49 清水山古墳群
50 姥ヶ沢古墳群
51 板井古墳群
52 下手計西裏遺跡

（注）
榛沢郡域を示すラインは近世の郡域を参照したものである。古代では、自然条件その他の関係で、異なる部分があったと推定される。特に、利根川流域は、利根川・烏川等の乱流により近世以前の国境（郡境）は大きく変動している。したがって地域区分Ⅴの範囲は流動的である。

0　5km

第12図　古墳時代後期の遺跡分布（古墳・古墳群）




第13図　飛鳥～奈良/平安時代の遺跡分布

1 社長路遺跡
2 南大通線内遺跡
3 西富田遺跡
4 地神・塔頭遺跡
5 今井条里遺跡
6 七色塚遺跡
7 下田遺跡
8 大久保山遺跡
9 飯玉東遺跡
10 雷電下遺跡
11 東谷遺跡
12 東五十子遺跡
13 六反田遺跡
14 大寄遺跡
15 西浦北遺跡
16 宮西遺跡
17 石蒔遺跡
18 古川端遺跡
19 北貝戸遺跡
20 本部原遺跡
21 大仏廃寺
22 水窪遺跡
23 新井遺跡
24 下道南遺跡
25 西龍ヶ谷遺跡
26 中南遺跡
27 地福院遺跡
28 千光寺遺跡
29 石原山瓦窯跡
30 西谷遺跡
31 柳原遺跡
32 藤ノ木遺跡
33 寺山遺跡
34 伊勢方遺跡
35 出羽塚遺跡
36 用土前峯遺跡
37 用土北沢遺跡
38 北坂遺跡
39 平原遺跡
40 沼下遺跡
41 中山遺跡
42 甘粕山遺跡
43 鍛冶屋峯遺跡
44 川向遺跡
45 森後遺跡
46 上野遺跡
47 吉野廃寺
48 城見上遺跡
49 箭石遺跡
50 寄居廃寺
51 大正寺南遺跡
52 樋ノ下遺跡
53 台耕地遺跡
54 上宿遺跡
55 中宿遺跡
56 熊野遺跡
57 岡廃寺
58 新田遺跡
59 白山遺跡
60 砂田前遺跡
61 岡部条里遺跡
62 樋詰遺跡
63 町田西遺跡
64 下手計西浦遺跡
65 矢島南遺跡
66 起合遺跡
67 戸森松原遺跡
68 森下遺跡
69 皿沼西遺跡
70 戸森前遺跡
71 上敷免遺跡
72 本郷前東遺跡
73 新屋敷東遺跡
74 新田裏遺跡
75 八日市遺跡
76 宮ヶ谷戸遺跡
77 東川端遺跡
78 前遺跡
79 居立遺跡
80 城北遺跡
81 柳町遺跡
82 砂田遺跡
83 花小路遺跡
84 深谷城跡遺跡
85 城西遺跡
86 社前遺跡
87 幡羅遺跡
88 西別符廃寺
89 折原石道遺跡
90 甘粕原遺跡
91 露梨子遺跡
92 むじな塚遺跡
93 東伴場地遺跡
94 晶山重忠館跡
95 如意/如意南遺跡
96 川端遺跡
97 鹿島遺跡
98 鹿島平方裏遺跡
99 百済木遺跡
100 竹之花遺跡
101 白草遺跡
102 円阿弥遺跡
103 四反歩北・東遺跡
104 荷鞍ヶ谷戸遺跡
105 諦光寺廃寺
106 寺内廃寺
107 新田裏遺跡
108 西原遺跡
109 富士山遺跡
110 龍原裏遺跡
111 樋之上遺跡
112 辻遺跡
113 三ヶ尻遺跡

0　5km

(注1)
榛沢郡域を示すラインは近世の郡域を参照したものである。
古代では、自然条件その他の関係で、異なる部分があったと推定される。
特に、利根川流域は、利根川・烏川等の乱流により近世以前の国境(郡境)は大きく変動している。したがって地域区分Vの範囲は流動的である。

(注2)
第13図のうち▲は末野窯跡群支群の位置を、○付数字は支群番号を示す。
Ⓢは、桜沢支群を意味する。

第14図　下道南遺跡遠景（深谷市榛沢新田）

第15図　針ヶ谷堀と西龍ヶ谷遺跡（深谷市榛沢新田）

有することとなり、やはり11世紀代まで存続する。11世紀以降の集落の調査例は現状では少ない。10世紀以降、菅原遺跡では、半地下式、中宿遺跡では自立式竪形炉が検出されている。

(Ⅱ地域)

古墳時代以降成立する集落は、当該期に至っても連綿と存続するものがある。

六反田遺跡、大寄遺跡、西浦北遺跡、石蒔A遺跡、宮西遺跡等が、この種の集落に該当する。また、西浦北遺跡及び隣接する宮西遺跡では、10世紀以降と推定される製錬炉跡が検出されており、当地域は鉄生産の拠点となる。その時期は、明確ではないが10～11世紀代と想定されている。

条里型地割は、榛沢地区西部において残存していたが、昭和50年代に行われた圃場整備において、その大部分が失われてしまった。

(Ⅲ地域)

古墳時代後期に比較し、遺跡数が増加し、また特徴的な性格を有す遺跡が多い。

上流域では、中山遺跡、平原遺跡、北坂遺跡、沼下遺跡などで集落が調査されている。中山遺跡では、鉄生産関係の遺構群が多数検出されており、鉄生産の拠点的役割を担う遺跡であったことが判明した。当遺跡での鉄生産は、9世紀末～10世紀初頭に開始され、10世紀後半代まで行われている。

これらの集落は、谷を隔て古代那珂郡と接する地域であり、対岸の重要遺跡との関係も視野に入れる必要がある。特に北坂遺跡は、山崎山丘陵縁辺に位置するが、「中」の焼き印の出土等から那珂郡域に相当する可能性もある。

山崎山丘陵上には、藤治川を見下す位置に瓦塔を出土した藤の木遺跡、軒丸瓦を出土した寺山遺跡、石原山瓦窯跡等があり、丘陵部の開発が進んだことが想定できる。また、針ヶ谷堀右岸には下道南遺跡、西龍ヶ谷遺跡がある。下道南遺跡では、8世紀中頃の竪穴住居跡、西龍ヶ谷遺跡では9世紀代の仏堂施設に推定される建物跡が検出されている。

(Ⅳ地域)

(Ⅳa地域) 7世紀後半から10世紀にかけて、窯場としての役割を担う。7世紀後半段階では、成立期榛沢評家の熊野遺跡に大量に須恵器を供給することが判明している。周辺評家にも供給しているが、熊野遺跡での出土量は他遺跡を圧倒しており、榛沢評家と末野窯との強い関係が認識できる。

その後、8世紀中頃にやや生産を縮小させるが、8世紀後半から9世紀にかけて、再び拡大する。

この他、箱石遺跡では7世紀末～8世紀初頭段階の製錬炉が検出されており鉄生産の先進性が確認できる。その供給先は、須恵器と同様、評家が大きな候補地となる。

(Ⅳb地域) 集落跡の検出例は前代と同様少ない。ただし、台耕地遺跡では竪穴住居跡18軒・製錬炉7基・工房跡等が検出され、当地域における鉄生産の拠点的役割を担う。その時期は、9世紀後半～10世紀にかけてとされている。

(Ⅴ地域) 下手計西浦遺跡、町田西遺跡がある。下手計西浦遺跡では、竪穴住居跡9軒が調査されている。この他、帯金具や朱書された土器等の特殊な遺物も散見される。町田西遺跡でも掘立柱建物跡が検出されている。

(Ⅵ地域) 該期の調査例はない。今後集落の調査があったとしても分布密度が希薄であることは変わらないであろう。

(Ⅶ地域) 台地上に幡羅評家が成立し、郡家へと移行する。その成立時期は榛沢評家に近いものと考えられる。周辺には、西別府廃寺があり、出土軒丸瓦には岡廃寺例と同笵のものがある。榛沢及び幡羅郡家は、成立状況、立地等に類似性を有す。

また、幡羅遺跡正倉群の終末期は、10世紀後半～11世紀代であり、中宿遺跡の場合と近似している。幡羅郡家周辺には、大規模な遺跡が多く調査されている。新屋敷東遺跡、八日市遺跡、宮ヶ谷戸遺跡などで集落跡の調査がなされている。

(Ⅷ地域)

江南台地上に百済木遺跡、寺内廃寺があり、その周辺地域にも荷鞍ヶ谷戸遺跡、諦光寺廃寺、竹之花、白草、円阿弥遺跡などが存在する。百済木遺跡からは、7世紀末～8世紀初頭にかけての居宅跡が検出されている。このように当地域は、古代男衾郡において拠点的位置をしめるが郡家の所在は、基壇状遺構と岡廃寺・西別府廃寺と同笵関係を有す軒丸瓦が出土した東伴場地遺跡周辺の可能性が高いと考えている。

## Ⅲ　発見された遺構と遺物

### 1. 調査地点の位置

下道南遺跡は、櫛挽台地北部の針ヶ谷堀右岸に位置する。遺跡の標高は、約55m前後であり、眼下には、針ヶ谷堀により形成された狭小な水田が開け、遺跡との比高は、1.5mを測る。調査地の地番は、深谷市榛沢新田171番地である。

### 2. 調査の経過

発掘調査は、平成元年12月6日から22日にかけて実施した。調査面積は、約147㎡である。発掘調査実施箇所は、工場建設予定地の東南部の駐車場にあたる。

発掘調査直前に行われた確認調査では、工場敷地の大半は、遺構・遺物ともに検出されなかったので、駐車場造成予定地の遺構確認箇所に限り本調査を実施した。

遺構確認箇所は、駐車場敷地のほぼ中央部にあたり、古代の竪穴住居跡1軒のみが検出されている。遺構確認面は、地表から30cm程掘り下げたローム層上面である。

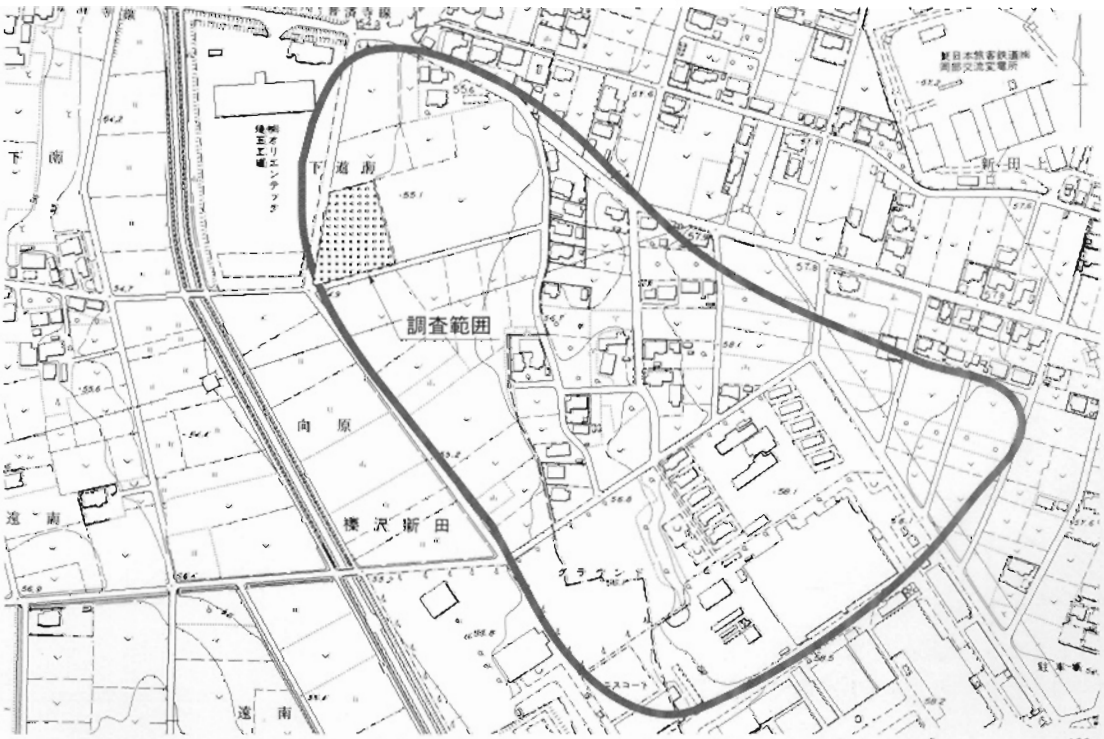
### 3. 発見された遺構と遺物

【1号竪穴住居跡】

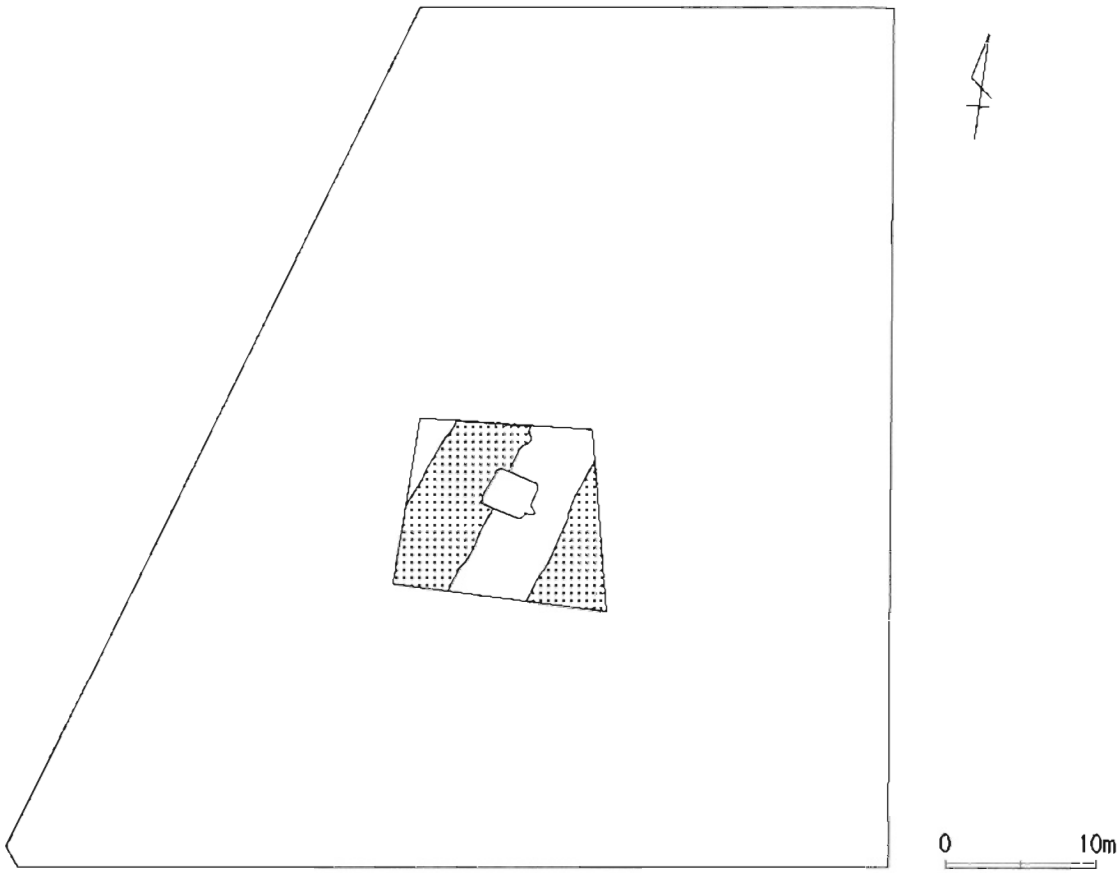
駐車場予定地の、ほぼ中央部に位置する。長軸は2.88m、短軸は2.40mである。主軸方位は、N−74°−Wである。遺構からの確認面は、30cmであり、住居跡南部は、撹乱を受けていた。柱穴は6ヶ所で検出されている。うち1ヶ所については切り合いが認められた。床面の状態は硬く、明確なものであった。

カマドは、東壁を60cm掘りこみ構築されている。袖の痕跡は見出すことはできなかった。前庭部には、長軸66cm、短軸45cmの掘り込みが検出されている。床面からの深さは、6cmである。

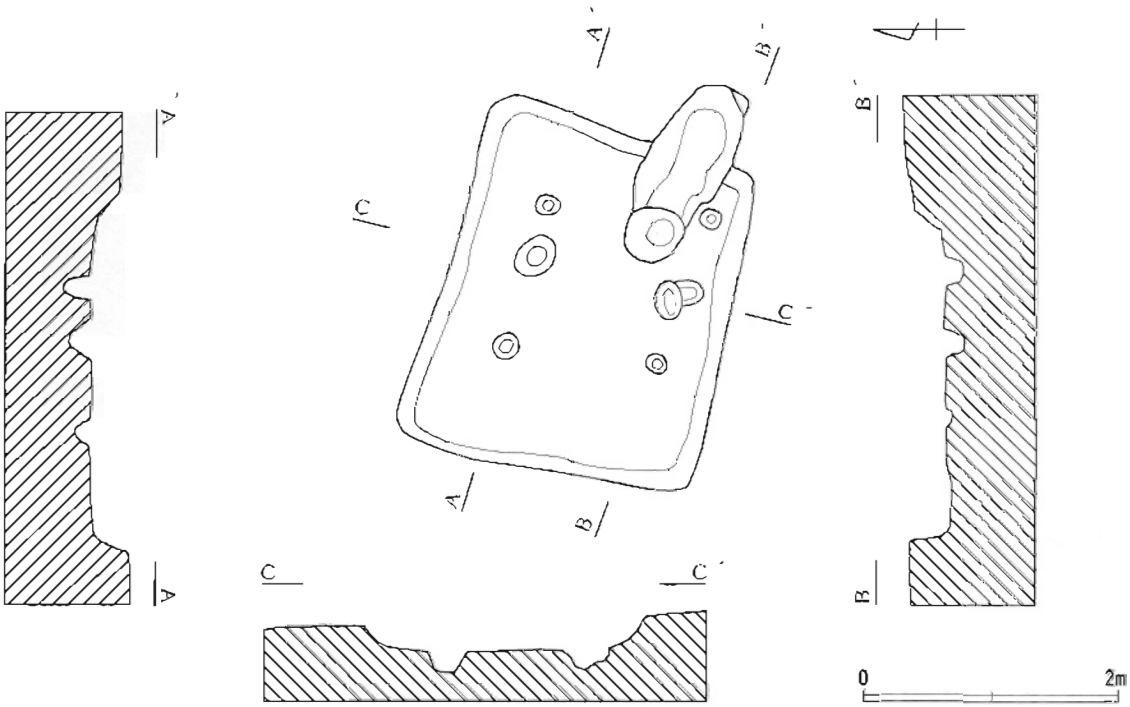
遺物では、カマド前庭付近に土師器甕が潰れた状態で出土している。この他にも土師器坏・甕、須恵器坏が床面直上付近で出土した。表土除去の際には、埴輪片が検出されており、古墳跡が周囲に存在している可能性があるが、試掘調査・本調査を含め、その存在は確認できなかった。



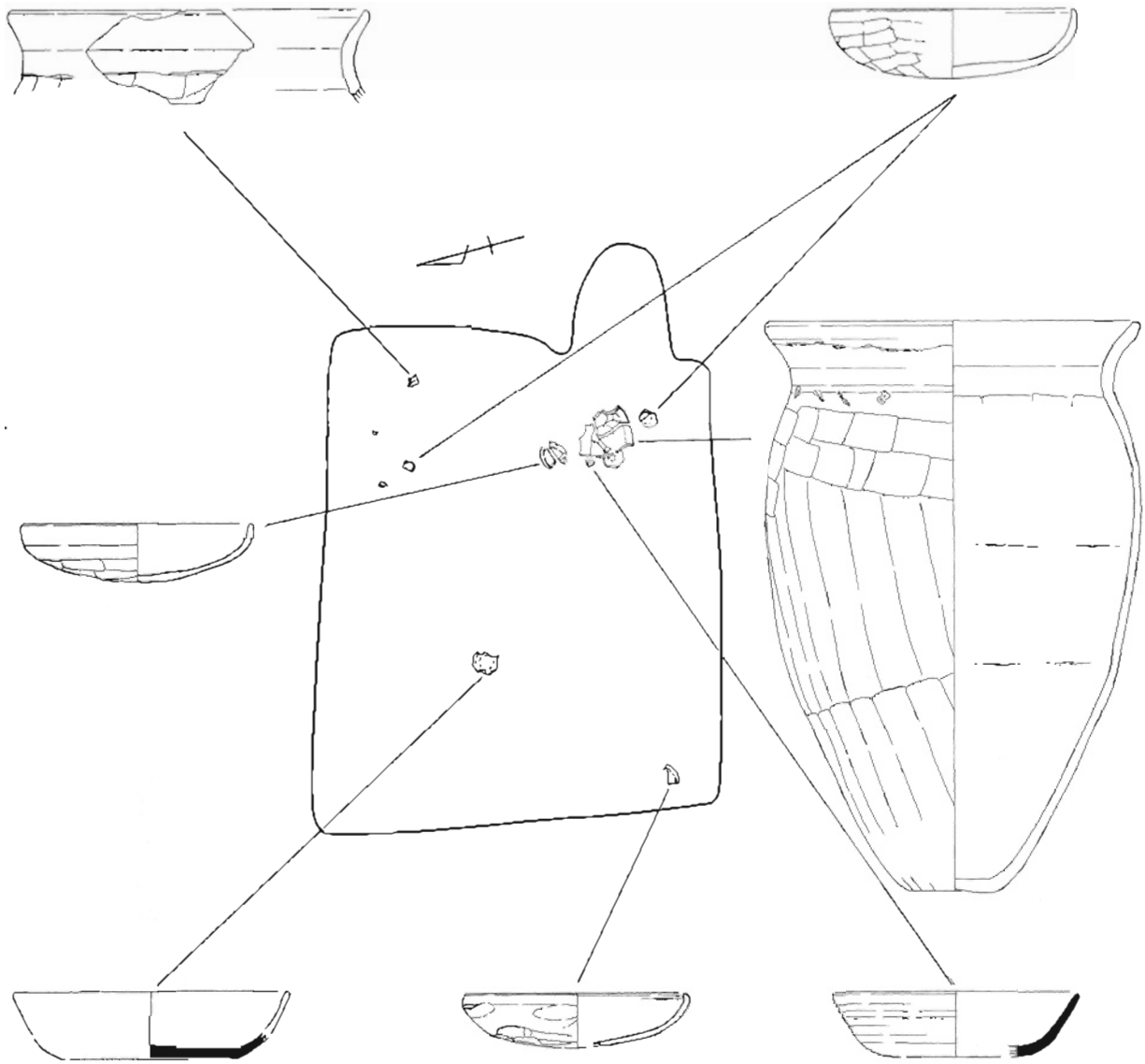

第16図　下道南遺跡の範囲と調査地点（縮尺1/5,000）



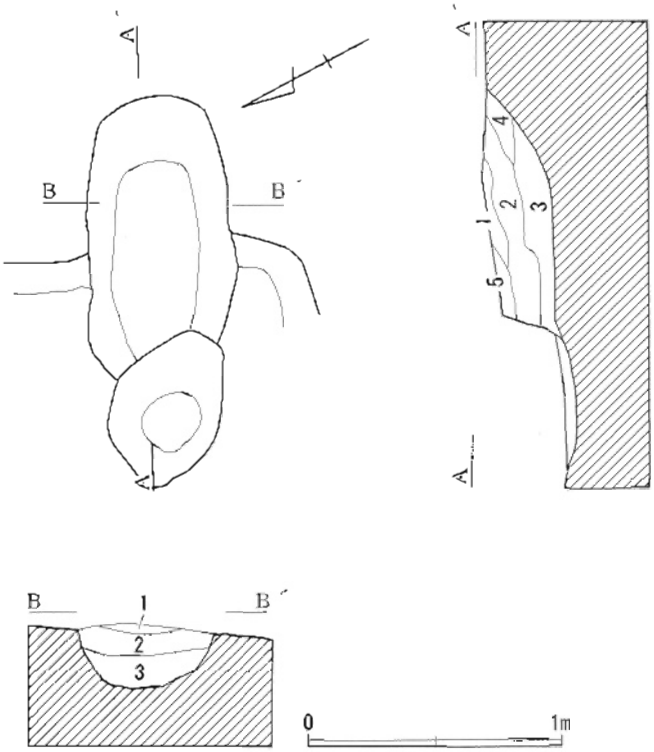

第17図　下道南遺跡全測図




第18図　下道南遺跡１号住居跡



第19図　1号住居跡遺物分布状況




1号住居跡カマド土層説明

1 暗茶褐色土　ローム粒、焼土粒含む。
2　〃　赤褐色焼土ブロック多量含む。
3 暗灰褐色土　炭化物少量含む。
4 暗茶褐色土　焼土ブロック少量含む。
5　〃　ローム粒若干含む。

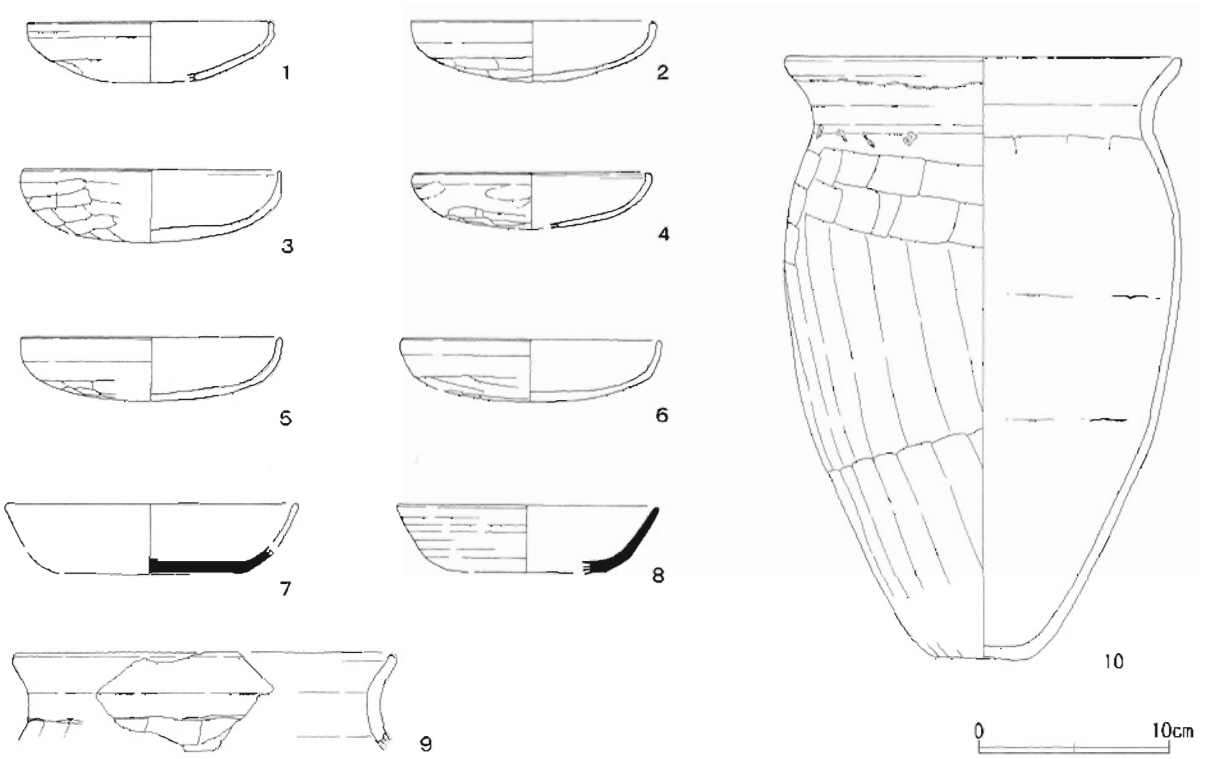
第20図　1号住居跡カマド実測図

1号住居跡出土遺物観察表

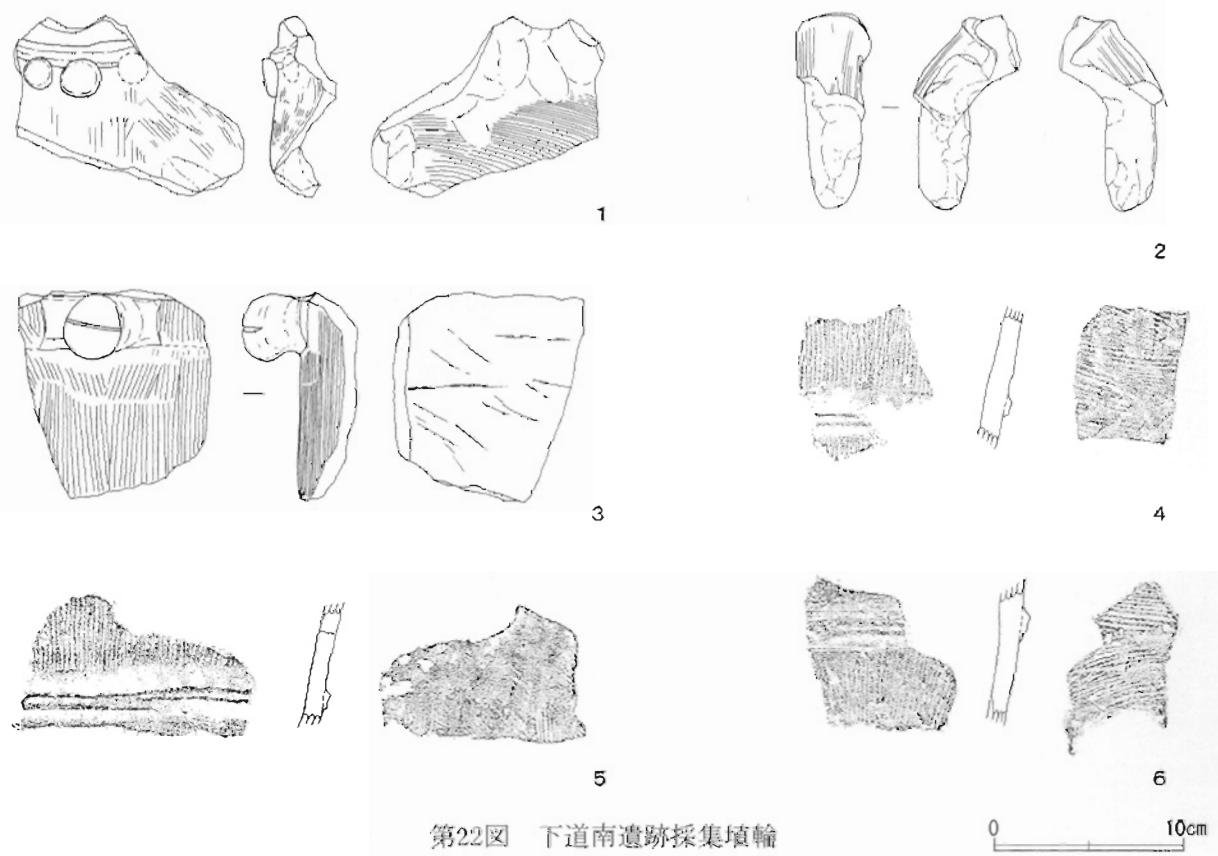
| 番号 | 器　種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 色　調 | 焼　成 | 胎　土 | 残存率 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 坏 | (12.8) | (3.2) | — | 橙褐色 | やや悪 | 石英、角閃石、微砂粒 | 図示10% | 覆土 |
| 2 | 坏 | 12.8 | 3.2 | — | 橙褐色 | 普通 | 石英、角閃石、雲母 | 図示85% | 図示 |
| 3 | 坏 | (13.5) | 3.9 | — | 茶褐色 | 普通 | 石英、角閃石 | 図示45% | 図示 |
| 4 | 坏 | (12.4) | (2.9) | — | 橙褐色 | 普通 | 石英、角閃石 | 図示40% | 図示 |
| 5 | 坏 | (13.7) | 3.3 | — | 橙褐色 | 普通 | 石英、角閃石 | 図示25% | カマド |
| 6 | 坏 | (13.8) | 3.3 | — | 暗赤褐色 | 普通 | 石英、角閃石 | 図示35% | カマド |
| 7 | 須恵　坏 | — | 《1.6》 | 9.5 | 明灰色 | 良好 | 石英、長石、海綿骨針 | 図示90% | 図示、底部周辺回転ヘラ、南比企 |
| 8 | 須恵　坏 | (13.8) | 3.6 | (8.4) | 暗灰～灰白 | 不良 | 石英、角閃石、微砂粒 | 図示20% | 図示、底部回転ヘラ、南比企？ |
| 9 | 甕 | (20.0) | 《5.3》 | — | 橙色 | 普通 | 石英、角閃石、雲母 | 図示15% | 図示 |
| 10 | 甕 | (20.8) | 32.2 | 5.0 | 橙褐色 | 普通 | 石英、角閃石、砂粒 | 図示55% | 図示 |

グリッド出土遺物観察表

| 番号 | 種　別 | 色　調 | 焼成 | 胎　土 | 外面調整 | 内面調整 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 形象・人物 | 橙色 | 普通 | 石英、長石、片岩、海綿骨針、雲母 | タテハケ＋ナデ 9本/2cm | 斜ハケ＋指ナデ 9本/2cm | 人物埴輪の首～肩の破片 |
| 2 | 形象・人物 | 橙褐色 | 普通 | 石英、長石、片岩、海綿骨針、雲母 | タテハケ＋指ナデ 8本/2cm | — | 人物の腕か |
| 3 | 形象・馬形 | 橙色 | 普通 | 石英、長石、片岩、海綿骨針、雲母 | タテハケ 8本/2cm | 指ナデ | 馬の鞦部か |
| 4 | 円筒 | 橙褐色 | 普通 | 石英、片岩、海綿骨針、雲母 | タテハケ 9本/2cm | 斜ハケ＋指ナデ 9本/2cm | 部位第1～2段目、突帯・不整台形 |
| 5 | 円筒 | 橙褐色 | 普通 | 石英、片岩、海綿骨針、雲母 | タテハケ 9本/2cm | 斜ハケ＋指ナデ 9本/2cm | 部位第2段目、突帯・不整台形 |
| 6 | 円筒 | 橙色 | 普通 | 石英、片岩、海綿骨針、雲母 | タテハケ 8本/2cm | 斜ハケ 8本/2cm | 部位第1～2段目、突帯・不整台形 |




第21図　1号住居跡出土遺物




第22図　下道南遺跡採集埴輪

## Ⅳ　まとめと考察

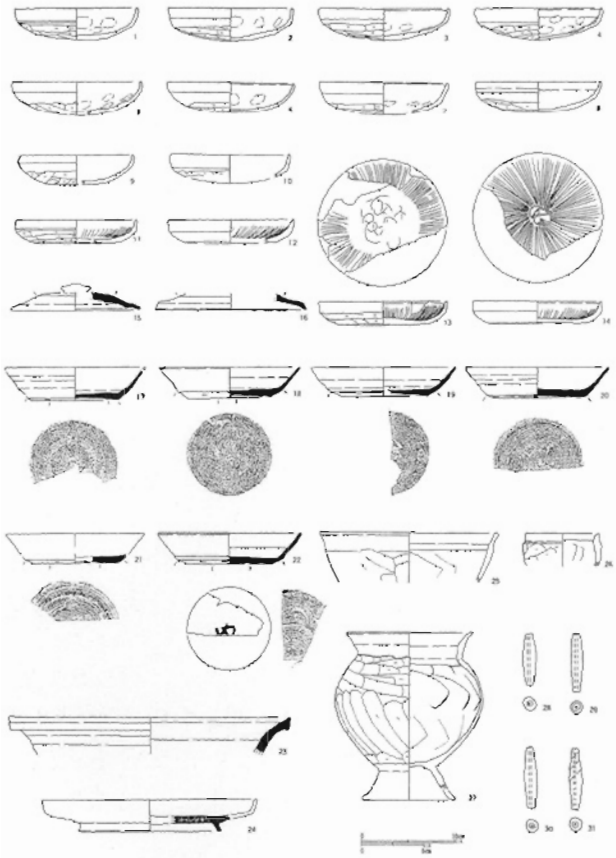
1．1号住居跡出土土器の編年的位置

下道南遺跡1号住居跡からは、土師器坏、須恵器坏、土師器甕が出土した。これらは、ある程度一括性を有すものと考える。

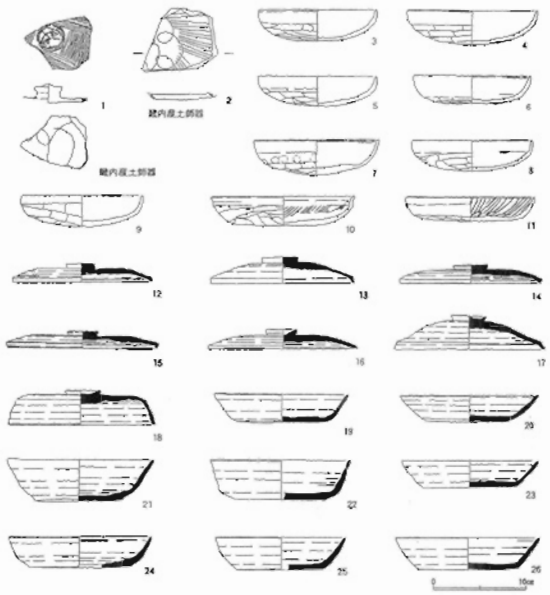
土師器坏は、北武蔵型坏が主体となり、口縁部は、外反気味のもの（№1）内湾気味に直立するもの（№2～6）がある。器高は、前段階に比較し扁平化していることが大きな特徴であるが、丸底の形態を保っている。

また、土師器甕は、「く」の字に外傾し、口縁部径と胴部上半の径が、近似する形態を有す。また、器壁はやや厚いつくりであるが、胴部上半横削り、下半斜め削りという「武蔵型甕」の特徴を示している。

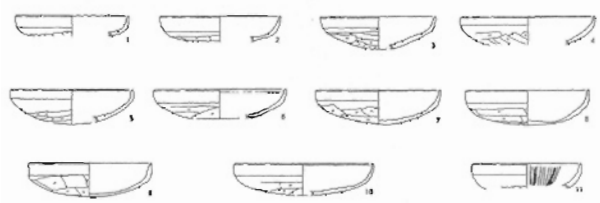
これらの諸特徴は、富田和夫氏の熊野遺跡編年に照らせば、Ⅲ期に該当するものであり、年代では概ね8世紀第2四半期があてられよう。土師器類に伴出する須恵器坏は2点とも南比企産の可能性が高い。口径が復元できる№8は13.8cmであり、古相段階では小型のグループである。周辺の代表的な例として、内出遺跡12号住居跡（鬼形他1986）、新田遺跡B区2号住居跡（赤熊2000）、熊野遺跡A区7号住居跡（富田2002）、熊野遺跡1次4号住居跡（深谷市教委2006）、などがあげられ、出土例が増加しつつある。

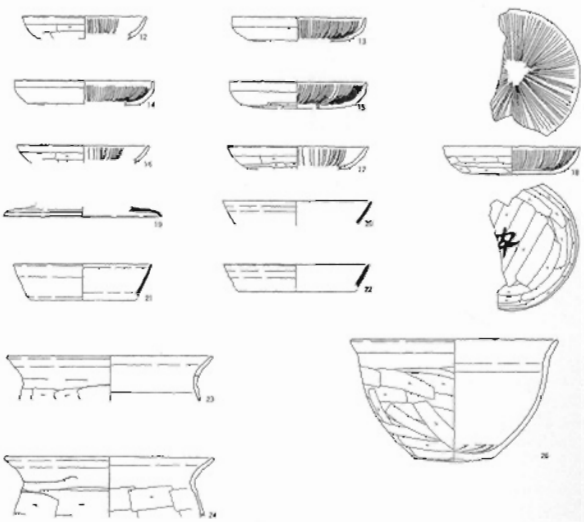


第23図　熊野遺跡A区7号住居跡



第24図　熊野遺跡1次4号住居跡





第25図　新田遺跡B区2号住居跡

## 2．藤治川・針ヶ谷堀流域の遺跡群の動向について

既に立地と環境において、下道南遺跡を含む藤治川・針ヶ谷堀流域の特徴について触れているが、ここでは、下道南遺跡周辺地域の遺跡群の内容についてさらに詳しく触れ、下道南遺跡理解の一助としたい。

藤治川・針ヶ谷堀流域は、幅狭な谷地形が細長く伸びており、弥生～奈良・平安時代にかけて、断続的な地域開発がなされたものと推定できる。

また、西部は山崎山、諏訪山丘陵、東部は、櫛挽台地中央部の遺跡空白帯と接することにより、比較的限定された地域設定が可能な地域であり、第Ⅱ章においてⅢ地域として分類した。当地域は以上の状況から、集団間の関係や遺跡の動向を比較的追いやすい地域である。

藤治川上流域の調査では、用土北沢遺跡（寄居町）の調査事例が注目される（第27図）。当遺跡からは、古墳時代前期の周溝墓から後期古墳への変遷がたどれる。このような事例は、藤治川下流域の千光寺遺跡（第31図）に共通性を見いだすことができる。この他、藤治川とはやや距離を置くが、諏訪山丘陵上に位置する玄蕃谷遺跡１～３号住居跡も古墳時代前期の豊富な土器群が検出されている（第28図）。さらに、中流域の狢山古墳群でも、方墳が確認されていることから、藤治川流域及びその周辺において、複数集団の存在が確認できる。狢山古墳群に隣接する狢山祭祀遺跡は、古墳時代中期に遡る可能性が指摘されている（深谷市教委2006）。狢山古墳群及び祭祀遺跡周辺は、藤治川流域において重要な位置を占める（第29～30図）。このように狭小な谷水田を生産基盤とした各所に点在する集団は、水利面において深い関係を有さざるを得ず、藤治川・針ヶ谷堀流域に農業共同体的な関係が想定されるのである。

７世紀後半～８世紀前半代に位置づけられる遺跡は、現在のところ少ないが、下道南遺跡（本報告）、地福院・中南遺跡（第35～36図）、用土北沢遺跡での検出例が明確なものである。

地福院遺跡、中南遺跡、下道南遺跡は、針ヶ谷堀中流域に所在する遺跡であり、いずれも小規模な調査事例であるが、７世紀末頃以降成立する集落跡が検出された意義は大きい。今後これらの集落跡が前代からどのような過程を経て形成されたのかに留意する必要がある。

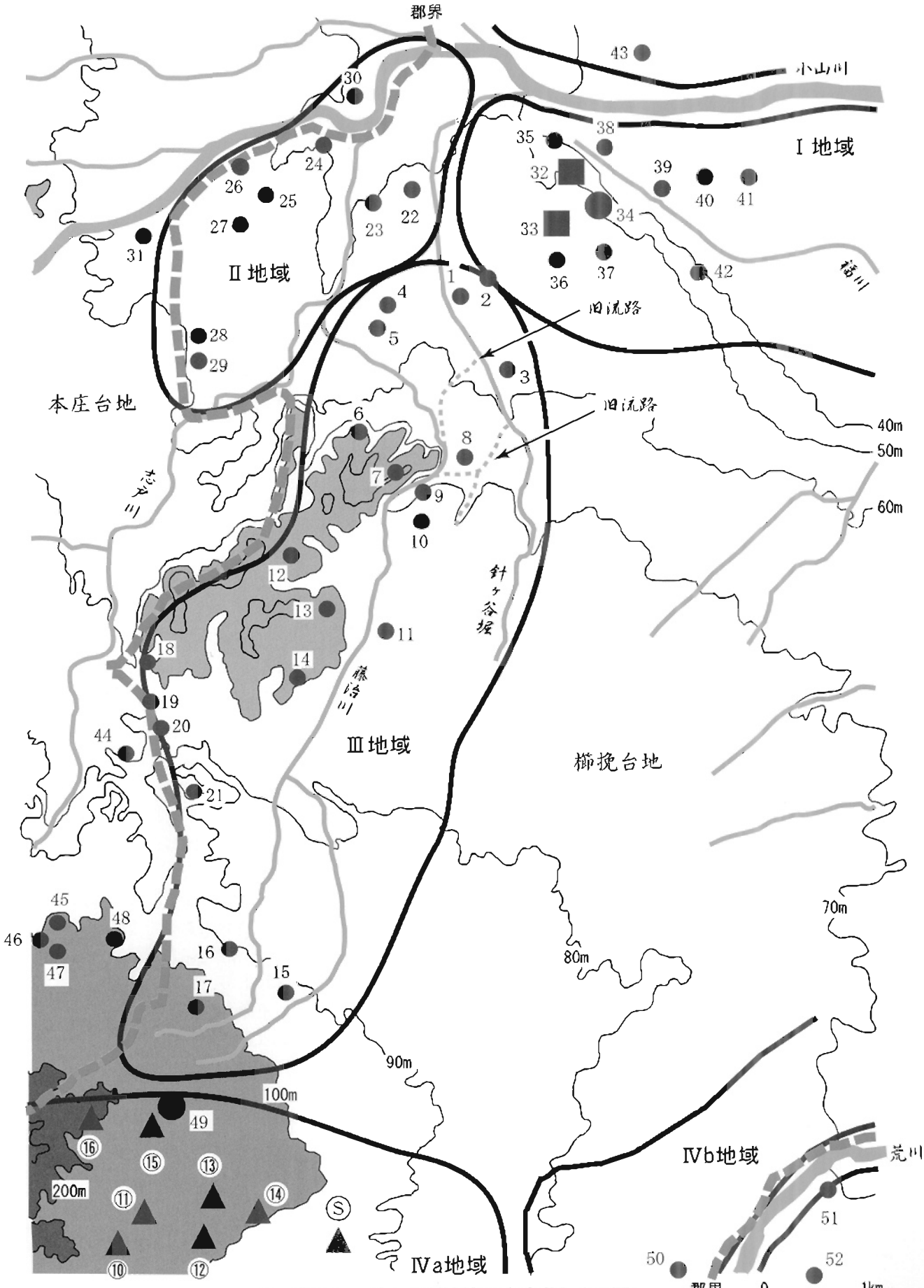
西龍ヶ谷遺跡は、下道南遺跡から800m東南に位置する遺跡である（第34図）。古代～中世にかけての遺構・遺物群が豊富に検出されている。特に９世紀代の住居跡群と掘立柱建物跡の関係は注目される。掘立柱建物跡は、３間×２間の四面庇付建物である。身舎には床束がある。当遺構は、仏堂施設の可能性が高いものとされている（井上2006）。

また、寺山遺跡・石原山瓦窯跡（第37～38図）では、いずれも軒丸瓦をはじめとする遺物類が採集されている。 前者からは、８世紀前半代、後者は９世紀後半代の軒丸瓦が採集された。発掘資料ではないため、遺跡の性格は明確でないが、山崎山丘陵裾部において当該期の寺院あるいは瓦窯の存在を暗示する。同一丘陵上にある藤の木遺跡は、瓦塔出土地として学史上著名である（第39図）。池田敏宏氏の分類に照らせば上西原類系であり、年代的には９世紀後半段階が想定できる（深谷市教委2006）。当遺跡は、藤治川流域の谷水田を見下ろす丘陵裾部に位置する。

先述の西龍ヶ谷遺跡・寺山・石原山瓦窯跡との状況をあわせて考慮すると、８～９世紀代において当地域と仏教との関係の深さを読み取ることが可能である。仏教信仰が在地の開発や集団関係に一定の役割を果たしたことが推定される。

やや時期が下る10世紀から11世紀にかけては、中山遺跡が鉄生産の拠点的役割を担う（第40図）。

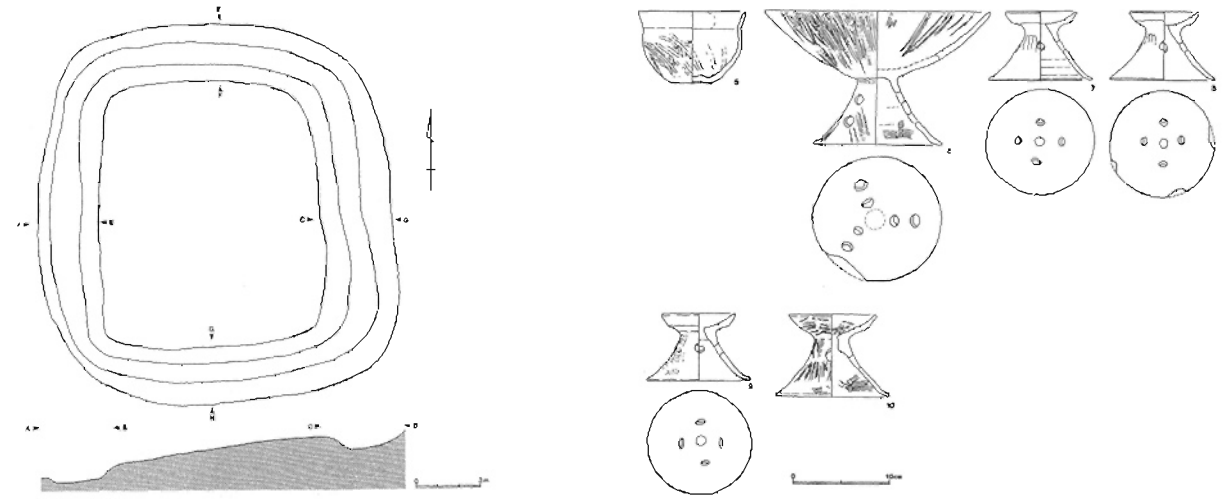
この時期、榛沢郡域は、各地域に鉄生産の拠点的役割を有す遺跡が確認できる。Ⅰ地域には菅原遺跡・中宿遺跡が、Ⅱ地域には、西浦北遺跡が、Ⅳ地域には台耕地遺跡が所在する。このような、郡内各地域の鉄生産は、在地有力層が積極的に関与したことが想定されるが、熊野遺跡で検出された連房式鍛冶工房に象徴されるような、評・郡司層が主導したものとは質的に大きく異なる。また鉄生産関連遺跡の分布を見ると、郡域に分散的に存在し、９世紀後半～10世紀以降活性化することから、各地域での新興勢力が関与したものと考えられる。郡家を象徴する施設である榛沢・幡羅郡の正倉遺構が10世紀後半以降、次第に衰退する現象と鉄生産の郡内地域への拡散現象は、伝統的な社会の崩壊と新たな時代の始まりを象徴する出来事ではないかと思う。



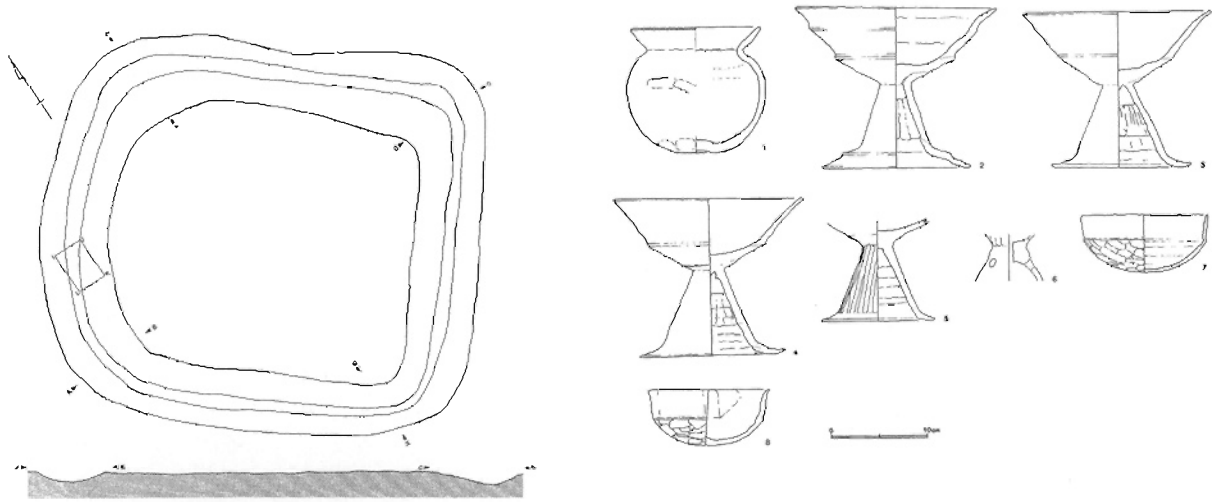

第26図　藤治川・針ヶ谷堀流域の遺跡群とその周辺

## 地名表

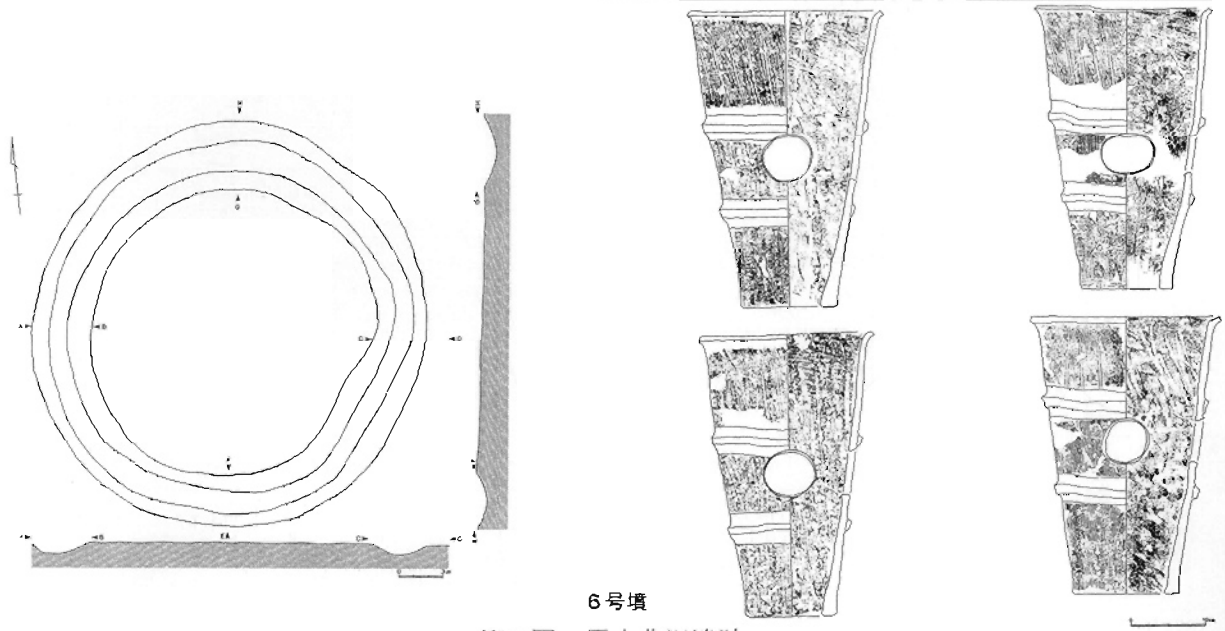
| No. | 遺跡名 | 内　　容 | 主　要　参　考　文　献 |
|---|---|---|---|
| 1 | 下道南遺跡 | 8世紀前半の竪穴住居跡及び墳輪片を検出。本報告遺跡。 | 本報告 |
| 2 | 平塚古墳 | 胴張型横穴式石室を検出。藤治川右岸の古墳群中の一基。 | 深谷市教委2006「岡部町史―原始・古代資料編」他 |
| 3 | 西龍ヶ谷遺跡 | 掘立柱建物（仏堂施設）及び竪穴住居跡群あり。9世紀代。 | 〃 |
| 4 | 中南遺跡 | 7世紀末以降成立する集落跡 | 東京電力調査会「中南遺跡」2004 |
| 5 | 地福院遺跡 | 〃 | 深谷市教委2006「岡部町史―原始・古代資料編」2006 |
| 6 | 千光寺遺跡 | 方形周溝墓～古墳へと変遷する墳墓群及び平安時代集落。 | 埼玉県遺跡調査会1975「千光寺」 |
| 7 | 石原山瓦窯跡 | 9世紀代の瓦採集地。斜面地であることから窯跡の可能性あり。 | 深谷市教委2006「岡部町史―原始・古代資料編」他 |
| 8 | 茶臼山古墳群 | 明治期に遺物出土。東京大学に収蔵。古墳跡1基調査。 | 八木奘三郎他1902「武蔵国大里郡本郷村古墳調査報告」<br>東京人類學會雑誌第17巻193号　深谷市教委2006「岡部町史―原始・古代資料編」 |
| 9 | 西谷遺跡 | 平安時代集落。 | 未報告 |
| 10 | 柳原遺跡 | 古墳・平安時代集落。 | 深谷市教委2006「岡部町史―原始・古代資料編」 |
| 11 | 伊勢方遺跡 | 平安時代集落。 | （財）埼埋文2006「伊勢方遺跡」 |
| 12 | 狐山古墳群<br>狐山祭祀遺跡 | 古墳時代中期の祭祀遺物出土。隣接して方墳が検出。 | 深谷市教委2006「岡部町史―原始・古代資料編」他 |
| 13 | 藤ノ木遺跡 | 瓦塔が採集される。 | 石村喜英1962「武蔵藤の木の瓦塔遺跡」史跡と美術324号他 |
| 14 | 寺山遺跡 | 瓦片採集。 | 深谷市教委2006「岡部町史―原始・古代資料編」他 |
| 15 | 出羽塚遺跡 | | 寄居町教委1999「町内遺跡7」 |
| 16 | 用土前峯遺跡 | | 寄居町遺跡調査会1996「用土前峯遺跡（第2次・第3次）」 |
| 17 | 用土北沢遺跡 | 古墳時代前期～中期の墳墓群・後期群集墳。古墳～平安時代集落。 | 寄居町教委2000「用土北沢（3次）」<br>寄居町教委1999「用土高城・用土北沢（4次）」 |
| 18 | 北坂遺跡 | 掘立柱建物跡・竪穴住居跡が規則的に配置。「中」焼印出土。 | （財）埼埋文1981「清水谷・安光寺・北坂」 |
| 19 | 平原遺跡 | 奈良・平安時代集落。竪穴住居跡・掘立柱建物跡検出。 | （財）埼埋文1982「沼下・平原・中山・お金塚・中井丘・鶴巻・水久保・狐久保遺跡」 |
| 20 | 沼下遺跡 | | 寄居町教委1999「沼下遺跡（第3次）」 |
| 21 | 中山遺跡 | 鉄生産関連遺構が検出される。 | 寄居町遺跡調査会1999「中山遺跡（第1次・第2次）」他 |
| 22 | 水窪遺跡 | 古墳・平安時代集落。後期古墳跡検出。 | 岡部町教委1976「水窪・新井遺跡の調査」<br>岡部町教委1977「水窪遺跡の調査（第2次）」 |
| 23 | 新井遺跡 | 土師器焼成遺構検出。奈良～平安時代集落。 | 岡部町教委1976「水窪・新井遺跡の調査」 |
| 24 | 六反田遺跡 | 古墳時代前期～平安時代まで断続的に遺構が検出される。中核的集落。 | 六反田遺跡調査会1981「六反田」 |
| 25 | 西浦北遺跡 | 古墳時代前期～平安時代まで断続的に遺構が検出される。鉄生産関連遺構あり。 | 岡部町教委1983「西浦北・宮西」 |
| 26 | 大寄遺跡 | 古墳時代前期～平安時代まで断続的に遺構が検出される。 | 岡部町教委1983「大寄B・西浦北」<br>（財）埼埋文2000「大寄遺跡Ⅰ」<br>（財）埼埋文2002「大寄遺跡Ⅱ」 |
| 27 | 宮西遺跡 | 古墳時代前期～平安時代まで断続的に遺構が検出される。 | 岡部町教委1983「西浦北・宮西」・（財）埼埋文1999「宮西遺跡」<br>（財）埼埋文2003「宮西遺跡Ⅰ」・（財）埼埋文2005「宮西遺跡Ⅱ」 |
| 28 | 石蒔遺跡 | 古墳時代前期～平安時代まで断続的に遺構が検出される。周溝墓群検出。 | 岡部町教委1978「後榛沢遺跡群の調査」<br>岡部町教委2002「石蒔B遺跡」 |
| 29 | 地神祇遺跡 | 古墳時代後期集落。大溝からは古墳時代前期～後期の遺物が大量に出土。 | 岡部町教委1978「後榛沢遺跡群の調査」<br>岡部町教委2000「町内遺跡Ⅰ」 |
| 30 | 東五十子遺跡 | | 東五十子遺跡調査会2002「東五十子・川原町」 |
| 31 | 古川端遺跡 | 古墳～平安時代集落。 | 埼玉県教委1978「東谷・前山2号墳・古川端」 |
| 32 | 中宿遺跡 | 榛沢郡正倉。倉庫群20棟が検出された。存続時期は7世紀末～10世紀頃。 | 岡部町教委1995「中宿遺跡―推定榛沢郡正倉跡の調査」<br>岡部町遺跡調査会1997「中宿遺跡Ⅱ」<br>岡部町教委1999「中宿遺跡Ⅲ」 |
| 33 | 熊野遺跡 | 榛沢評家関連遺構検出。7世紀第3四半期成立。道路遺構、大規模建物群、連房式鍛冶工房・石組井戸跡など豊富な遺構群が検出される。畿内産土師器、帯金具、円面硯などが出土。 | 岡部町遺跡調査会他2000・2003・2004・2004「熊野遺跡Ⅰ～Ⅳ」<br>岡部町教委2000～2005「町内遺跡Ⅰ～Ⅵ」<br>（財）埼埋文2000「熊野B・新田」・（財）埼埋文2002「熊野A・C・D区」 |
| 34 | 岡廃寺 | 基壇状遺構検出。8世紀前半に建立。 | 岡部町教委2005「町内遺跡Ⅵ」 |
| 35 | 上宿遺跡 | 古墳時代後期～奈良・平安時代まで継続する集落。 | 岡部町教委2000「町内遺跡Ⅰ」<br>岡部町遺跡調査会1998「上宿遺跡－F地点の調査」<br>岡部町遺跡調査会2005「上宿遺跡－A地点の調査」<br>岡部町遺跡調査会2005「上宿遺跡－B地点の調査」 |
| 36 | 新田遺跡 | 飛鳥～平安時代まで継続する集落。 | 岡部町遺跡調査会他2000・2003・2004・2004「熊野遺跡Ⅰ～Ⅳ」<br>岡部町教委2000～2005「町内遺跡Ⅰ～Ⅵ」 |
| 37 | 白山遺跡 | 飛鳥～平安時代まで継続する集落。 | 埼玉県教委1989「白山遺跡」 |
| 38 | 砂田前遺跡 | 古墳時代中頃～平安時代まで継続する集落。古墳時代後期初頭頃規模が拡大。 | （財）埼埋文1991「樋詰・砂田前」<br>（財）埼埋文1998「砂田前」 |
| 39 | 岡部条里遺跡 | 古墳時代集落。条里地割確認。 | 岡部町教委1998「岡部条里遺跡」<br>（財）埼埋文1999「岡部条里・戸森前」 |
| 40 | 樋詰遺跡 | 条里関係遺構及び竪穴住居跡確認。 | （財）埼埋文1991「樋詰・砂田前」 |
| 41 | 矢島南遺跡 | 古墳時代前期～平安時代集落 | （財）埼埋文1994「矢島南遺跡」 |
| 42 | 菅原遺跡 | 平安時代集落。鉄生産関連遺構あり。 | （財）埼埋文1996「菅原遺跡」 |
| 43 | 町田西遺跡 | 古墳・平安時代集落。掘立柱建物跡検出。 | 深谷市教委1991「町田西遺跡」・同教委1995「町田西（第2次）」 |
| 44 | 甘粕山 | 瓦塔出土。掘立柱建物跡あり（東山遺跡）。炭焼窯あり（如来堂D遺跡）。 | 埼玉県教委1980「甘粕山」 |
| 45 | 鍛冶屋峯遺跡 | 古墳～平安時代集落。 | 美里町教委1999「鍛冶屋峯遺跡・川向遺跡・森後遺跡」 |
| 46 | 川向遺跡 | 〃 | 〃 |
| 47 | 森後遺跡 | 〃 | 〃 |
| 48 | 上野遺跡 | 神社遺構（？）検出。 | 美里町教委2000「上野遺跡」 |
| 49 | 吉野廃寺 | 古代寺院跡。確認調査実施。 | 未報告 |
| 50 | 台耕地遺跡 | 平安時代集落跡。鉄生産関連遺構あり。 | （財）埼埋文1984「台耕地（Ⅱ）」 |
| 51 | 如意・如意南遺跡 | 古墳時代中期～平安時代まで続く中核的集落。 | （財）埼埋文2000「如意・如意南」・（財）埼埋文2004「如意南遺跡Ⅱ」・（財）埼埋文2001「如意Ⅱ」・（財）埼埋文2002「如意Ⅲ・川端」・（財）埼埋文2003「如意Ⅳ」 |
| 52 | 畠山重忠館跡 | 古墳～平安時代集落。 | 川本町教委1999「畠山館跡－5次調査の報告」 |



10号墳

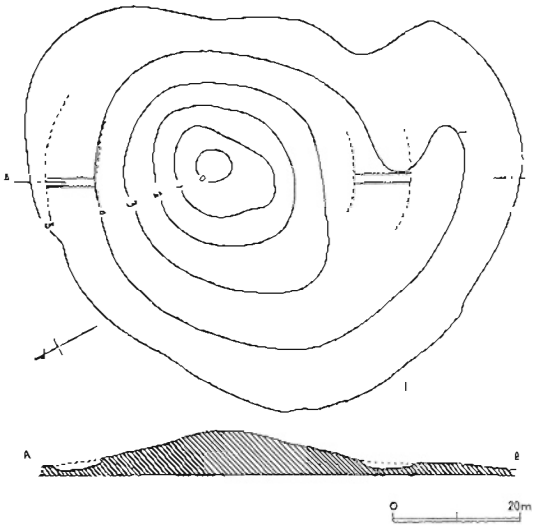


4号墳

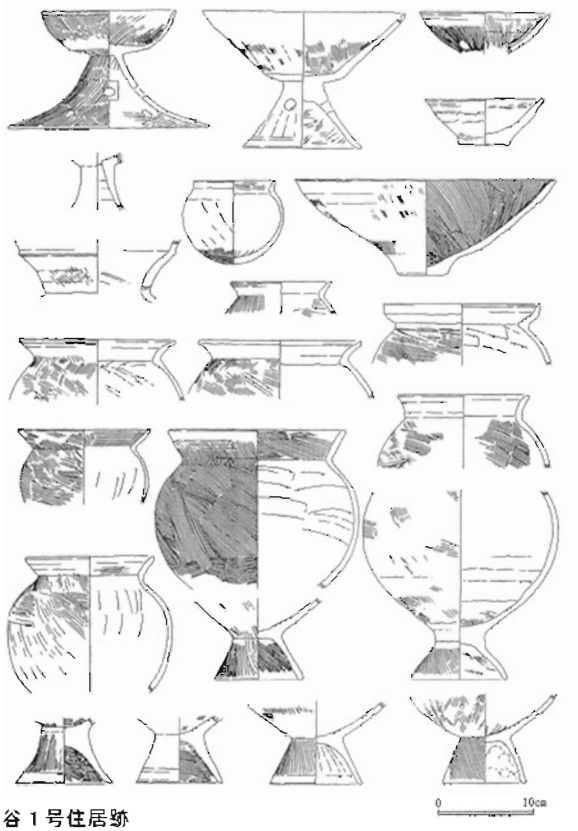


6号墳

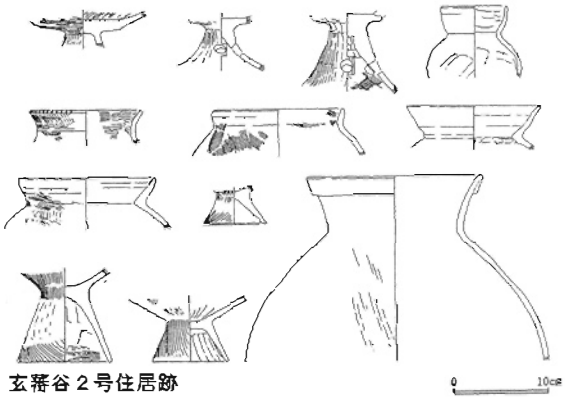
第27図　用土北沢遺跡



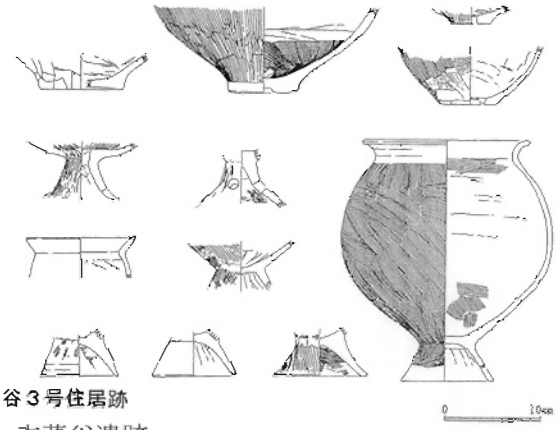

長坂古墳




玄蕃谷１号住居跡

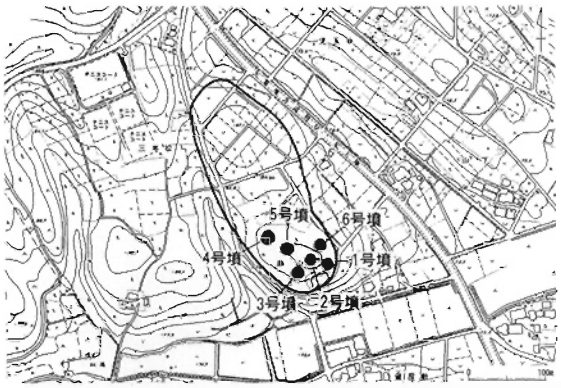


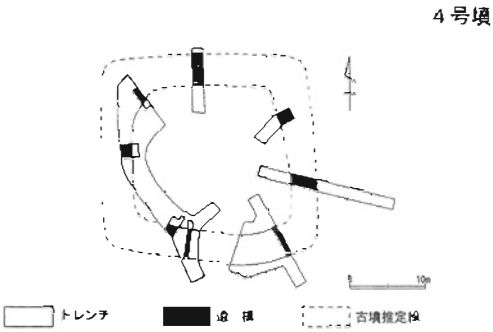

玄蕃谷２号住居跡




玄蕃谷３号住居跡

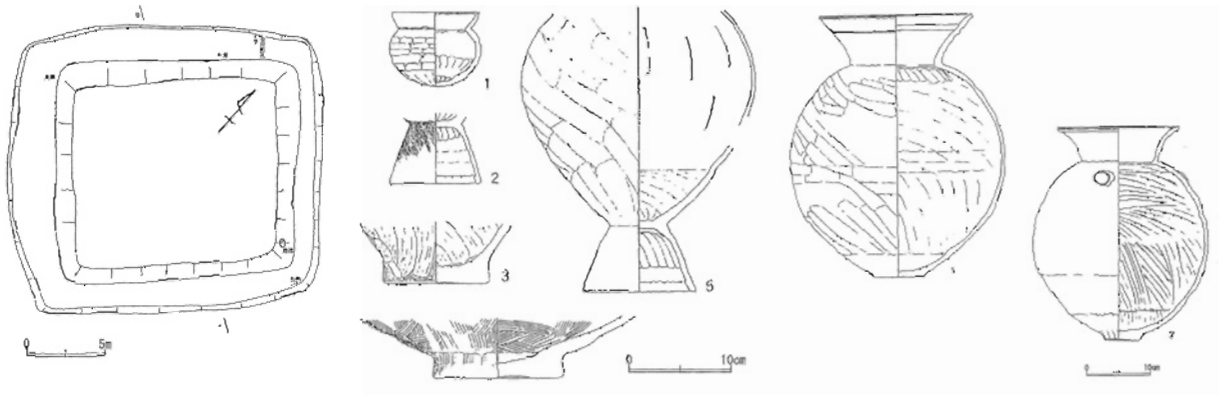
第28図　長坂古墳・玄蕃谷遺跡



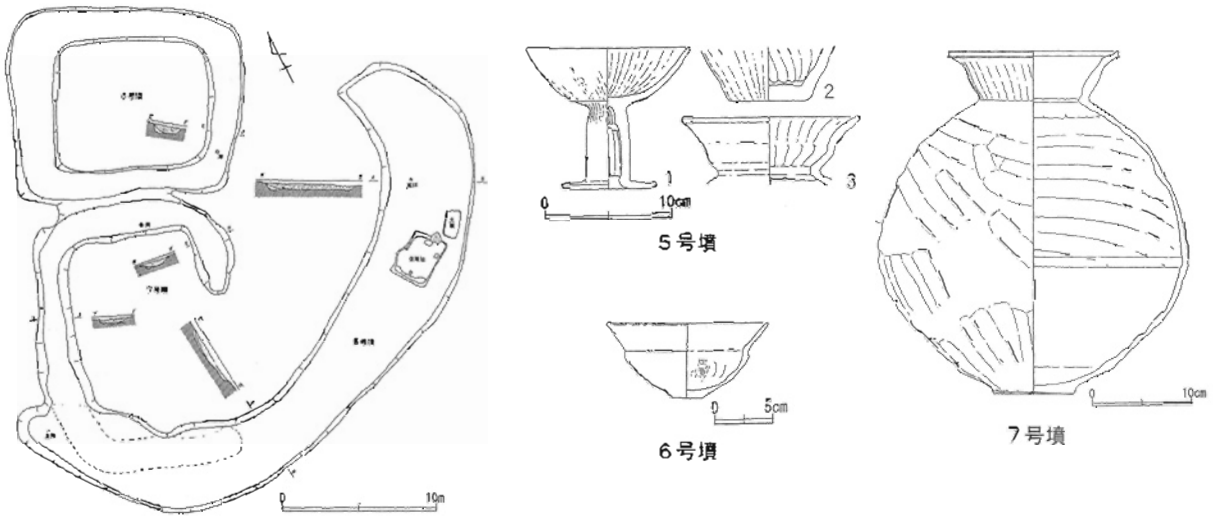




第29図　狢山古墳群

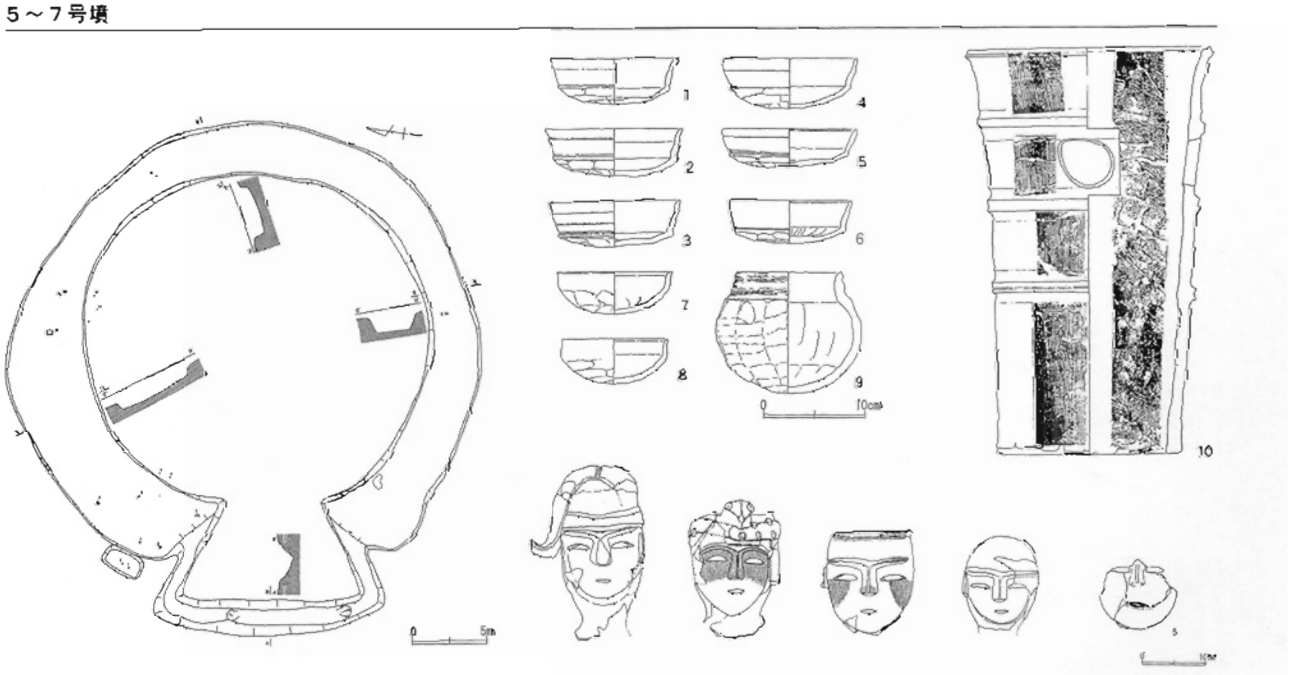
第30図　狢山祭祀遺跡




4号墳

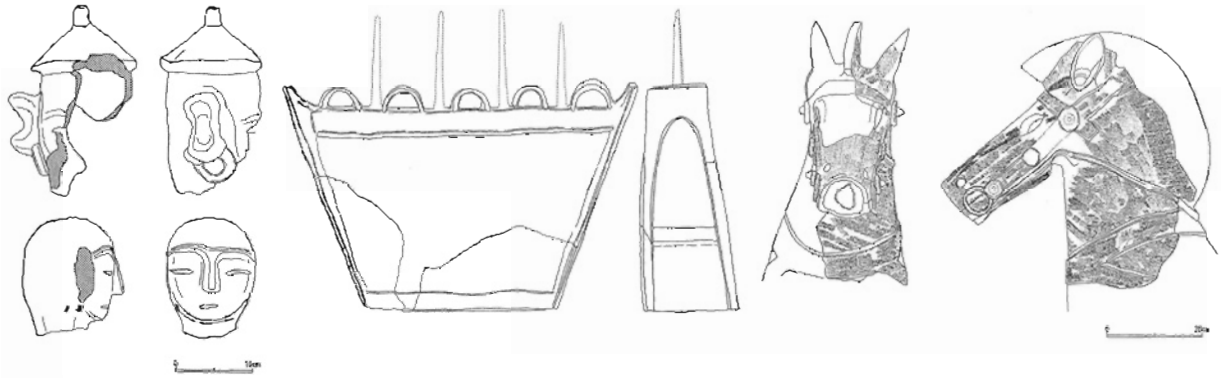


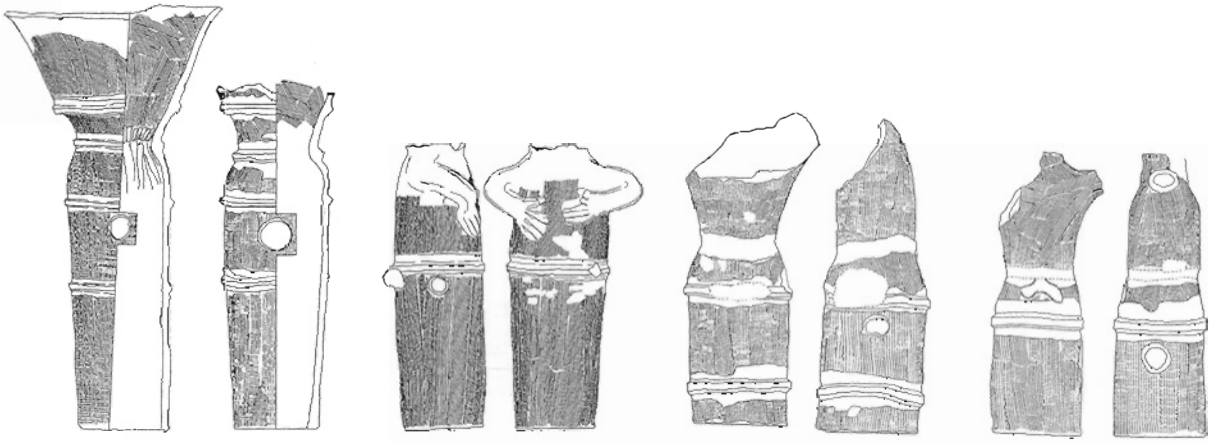

5～7号墳



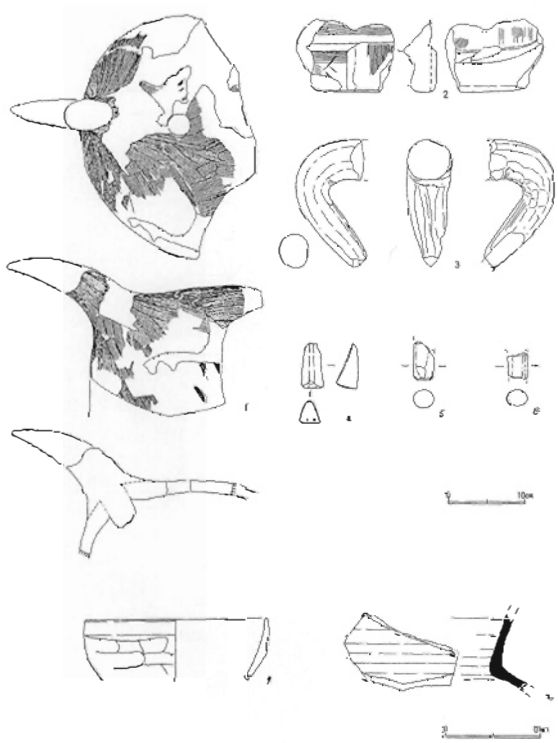

1号墳

第31図　千光寺遺跡



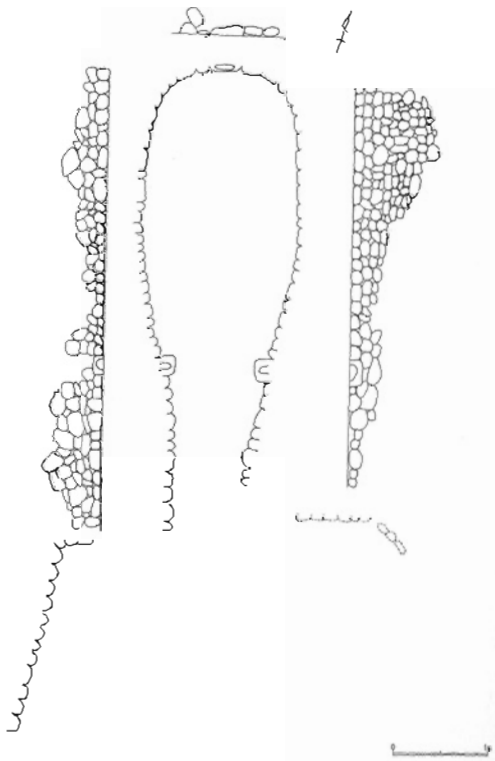


東京大学収蔵資料

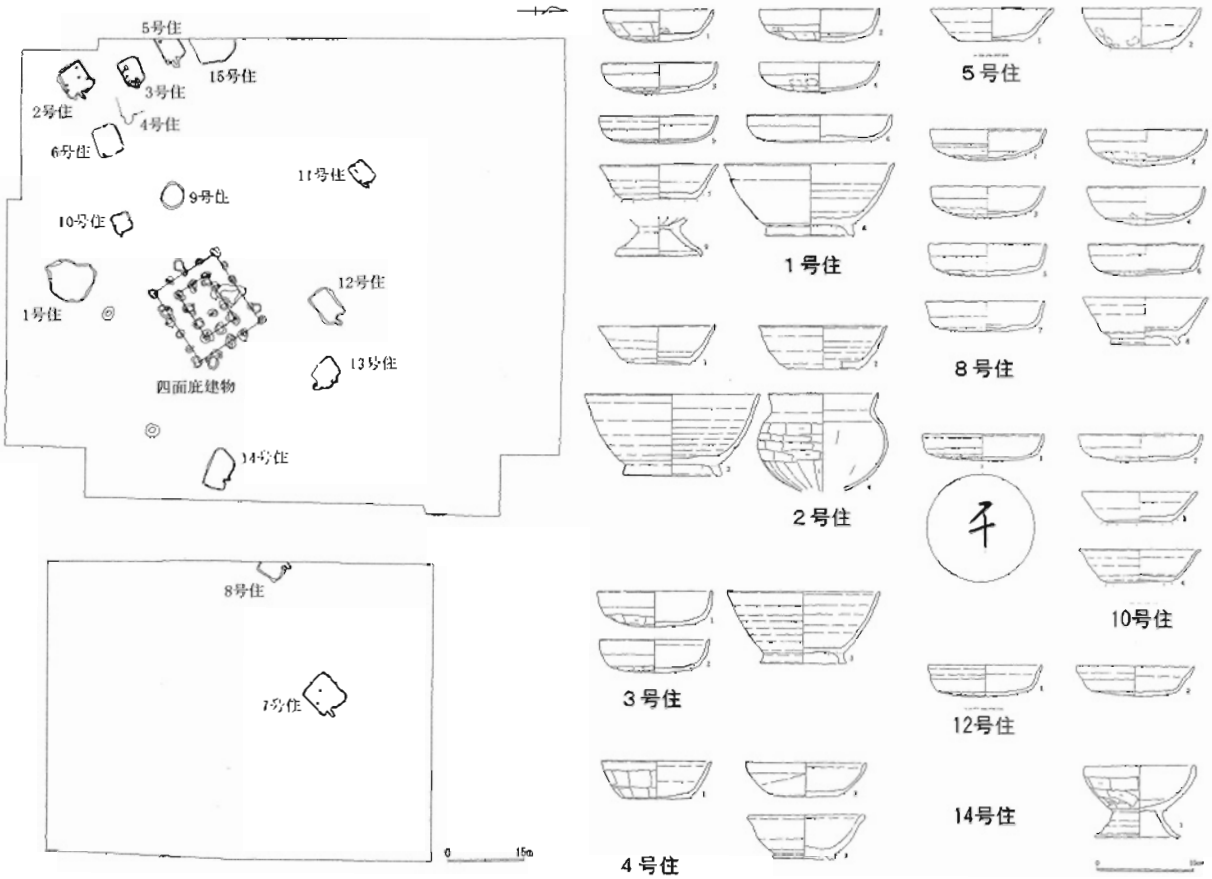


1号墳

第32図　茶臼山古墳群

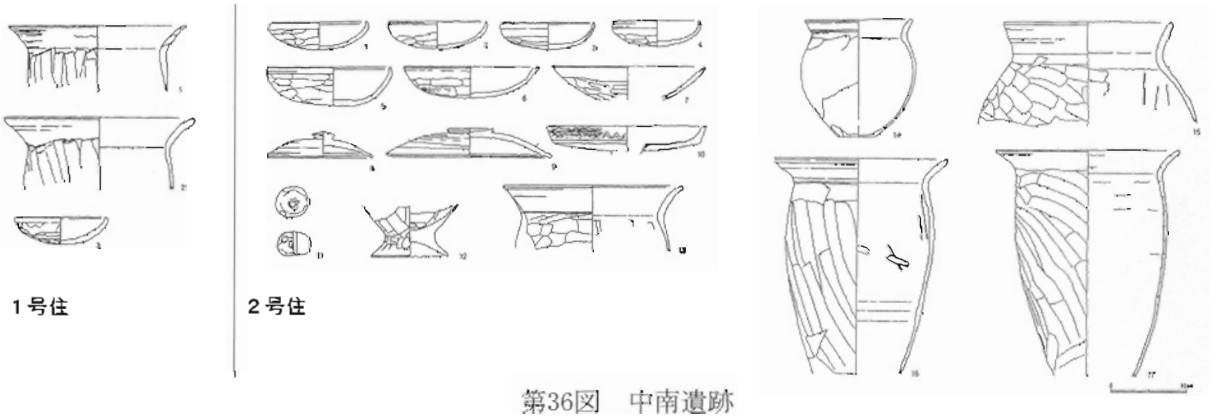


第33図　平塚古墳

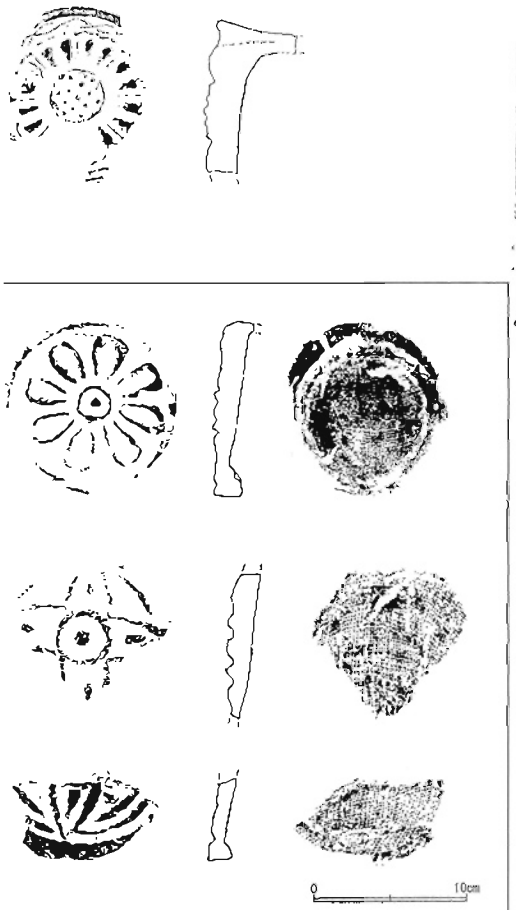



第34図　西龍ヶ谷遺跡

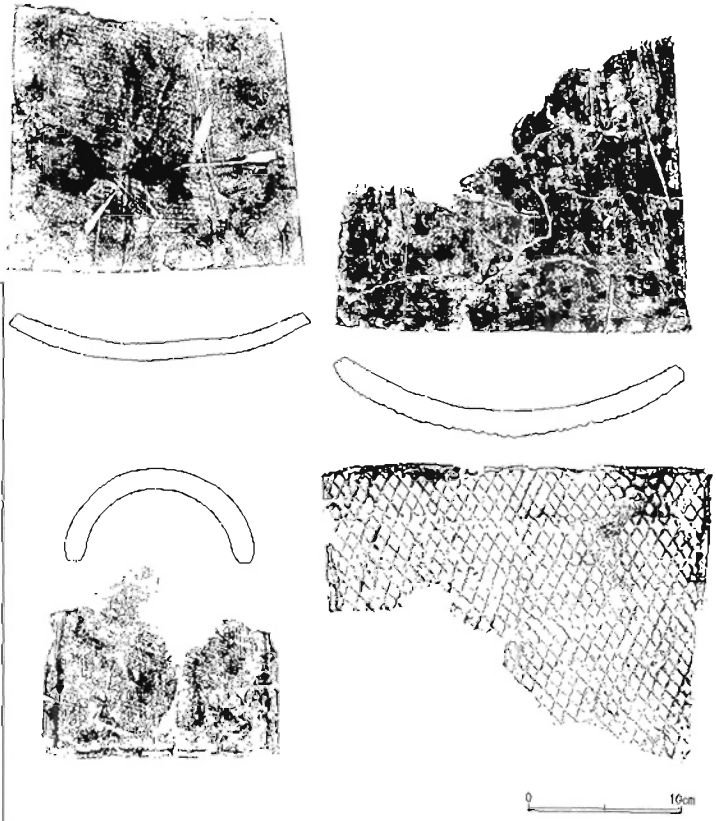
第35図　地福院遺跡




第36図　中南遺跡

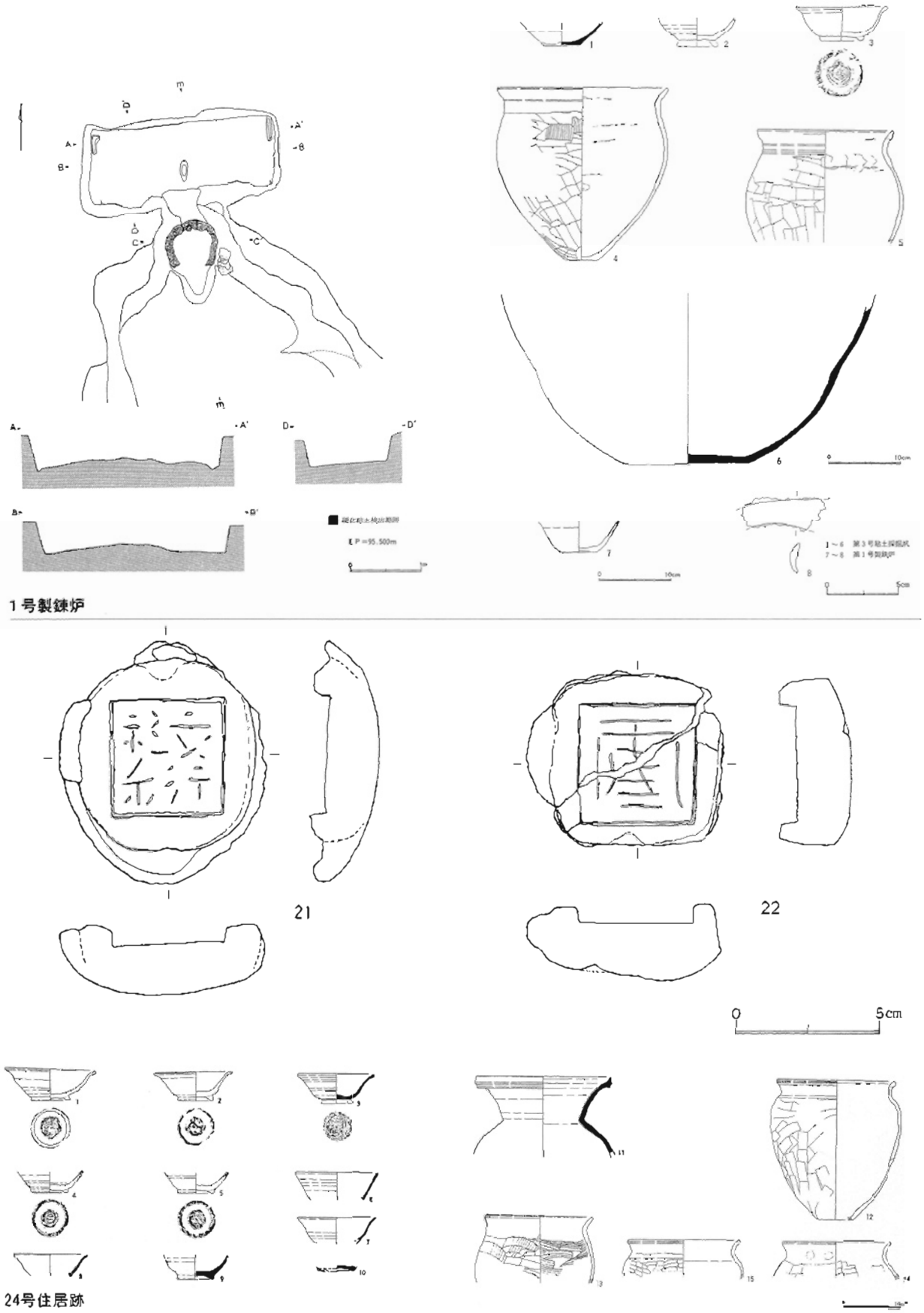



第37図　石原山瓦窯跡




第38図　寺山遺跡

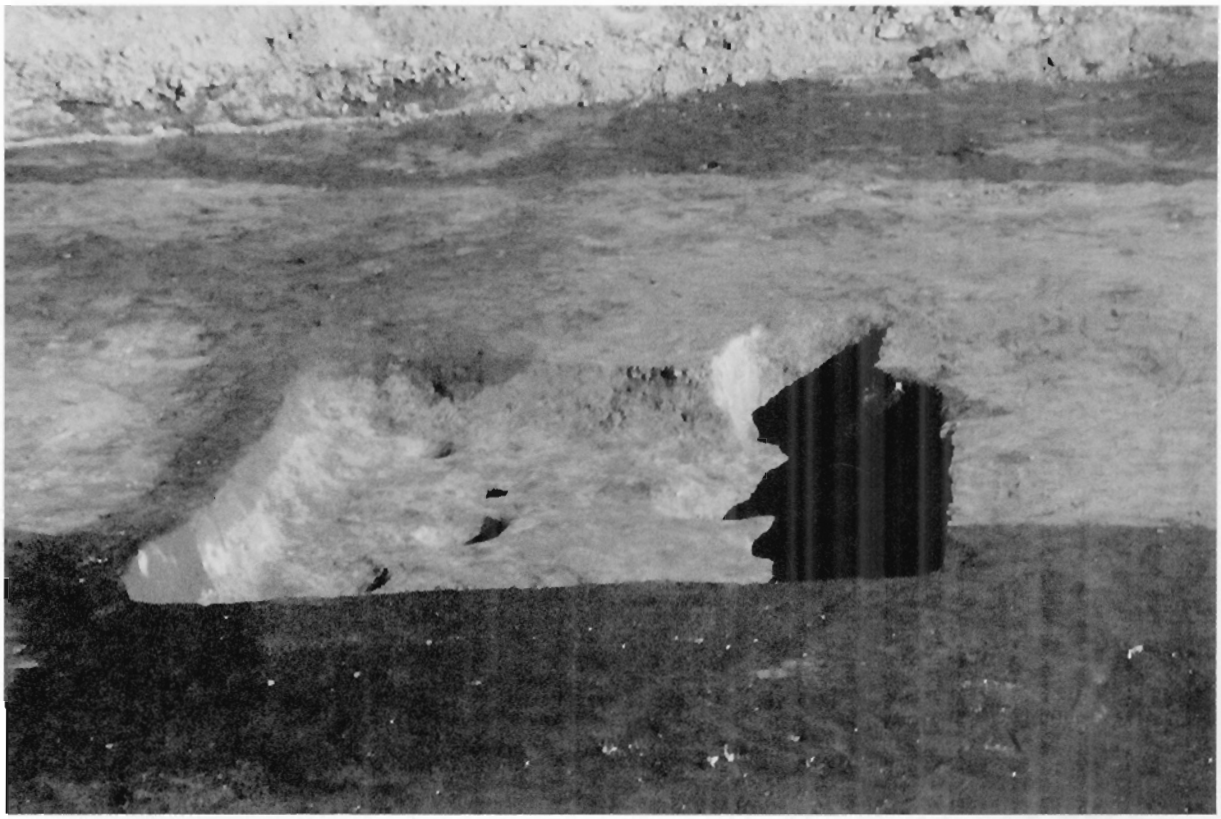
第39図　藤の木遺跡




第40図　中山遺跡

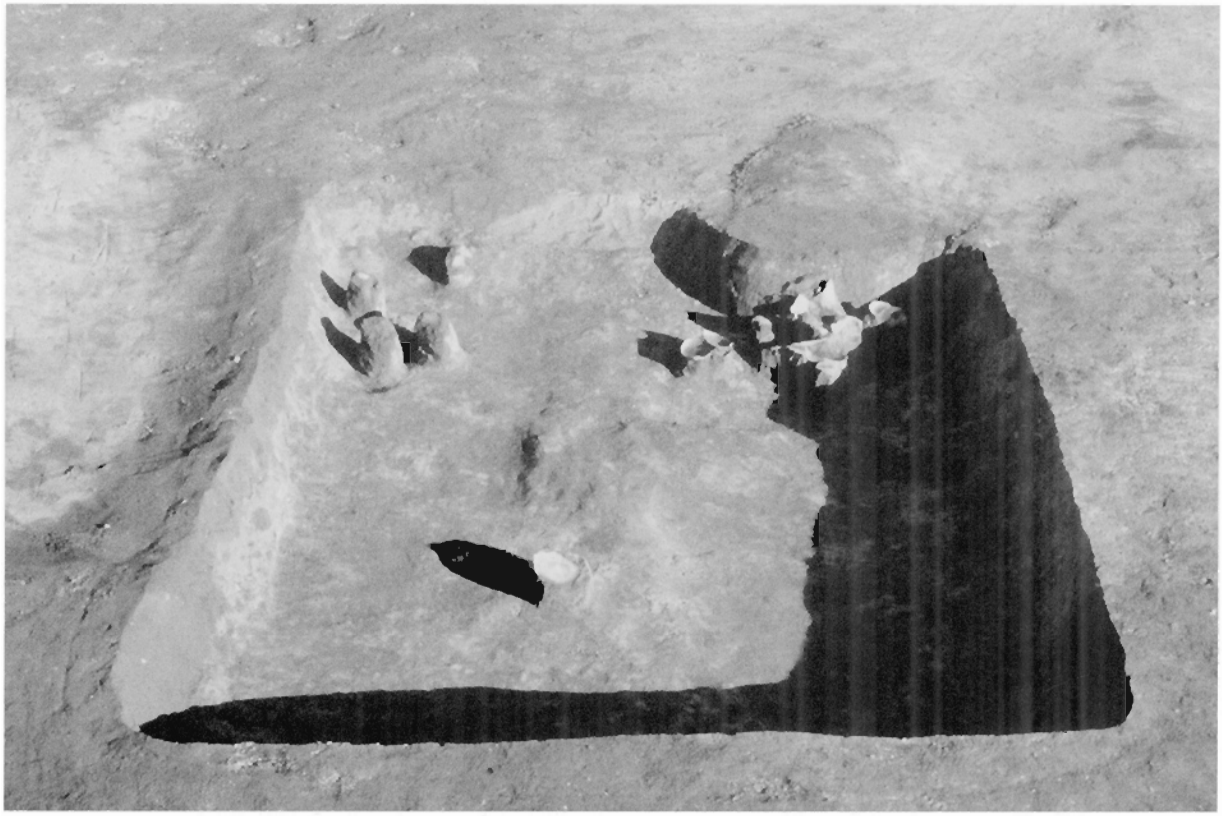
# 写　真　図　版

下道南遺跡全景

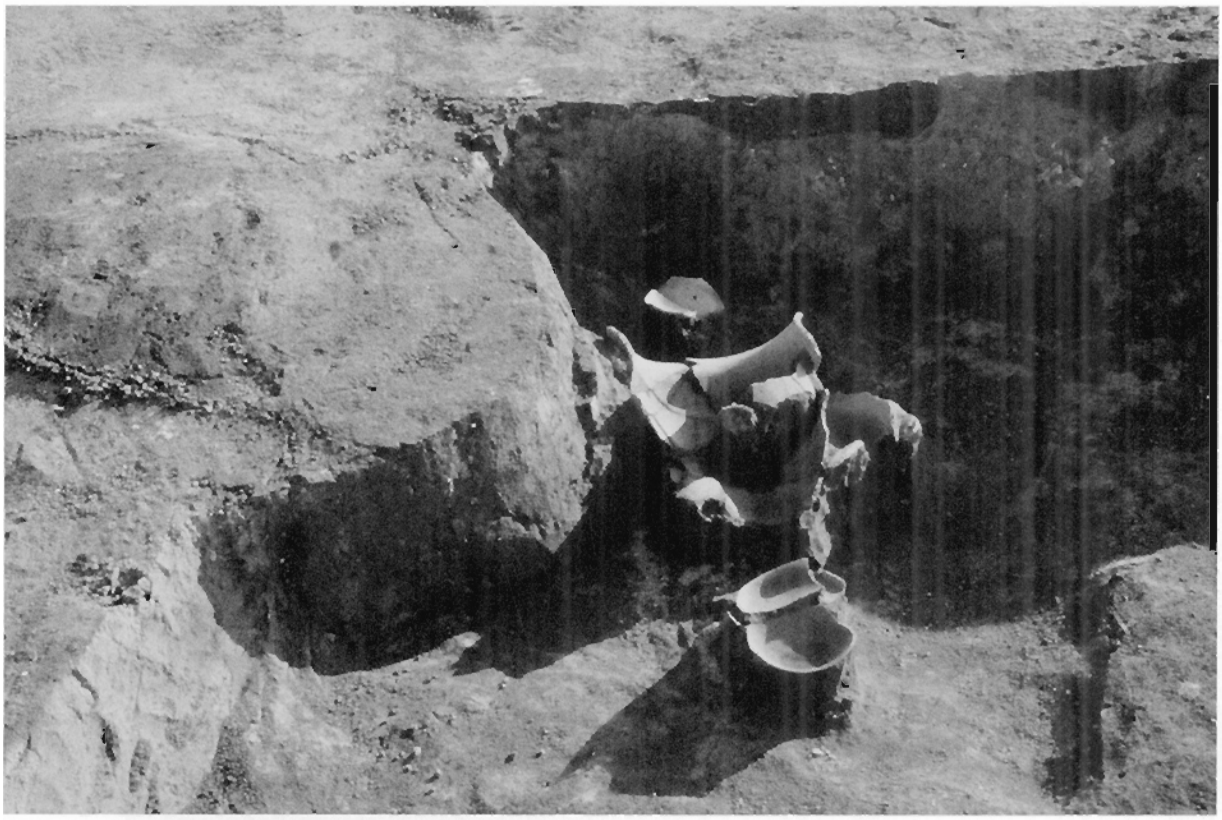


下道南遺跡 1 号住居跡完掘状況

図版２

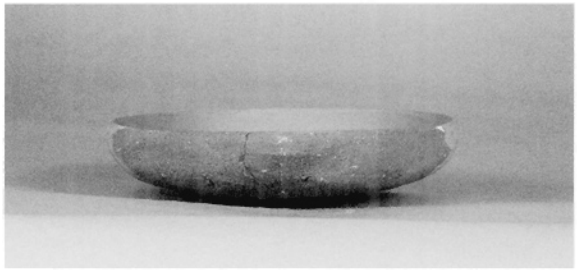


１号住居跡遺物出土状態（１）



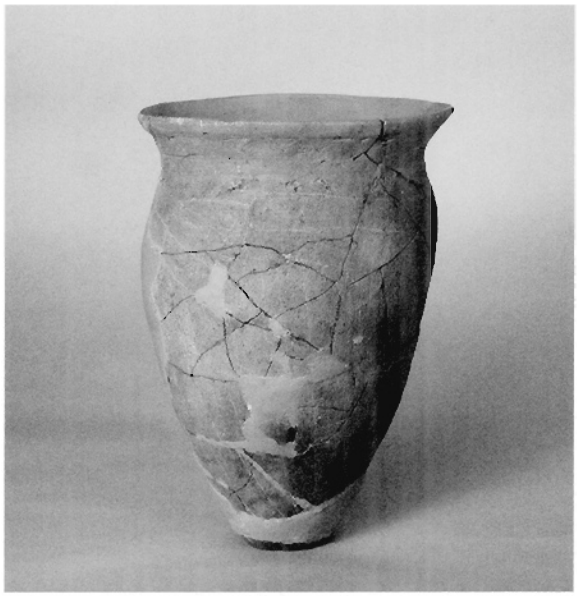
１号住居跡遺物出土状態（２）

1 号住居跡No. 2

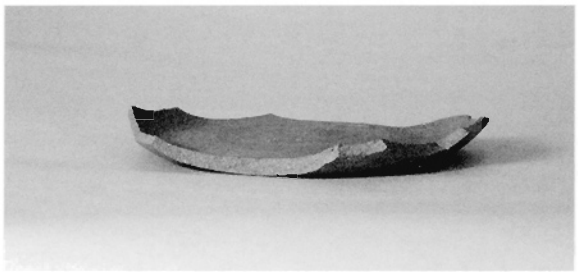


1 号住居跡No. 4

1 号住居跡No. 3



1 号住居跡No.10



1 号住居跡No. 7

1 号住居跡No. 8

下道南遺跡採集埴輪No. 1

下道南遺跡採集埴輪No. 2

下道南遺跡採集埴輪No. 3

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | しもみちみなみいせき |
| 書　名 | 下道南遺跡 |
| 副書名 | |
| シリーズ | 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻　次 | 第80集 |
| 編著者名 | 鳥羽政之 |
| 編集機関 | 深谷市教育委員会 |
| 所在地 | 〒366-0823　深谷市本住町17番地３　℡048(572)9581 |
| 発行日 | 平成18年10月31日 |

| 所収遺跡（しょしゅういせき） | 所在地（しょざいち） | | コード 市町村 | コード 遺跡 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| しもみちみなみいせき<br>下道南遺跡 | さいたまけんふかやし<br>埼玉県深谷市<br>はんざわしんでん<br>榛沢新田171番地 | | 11218 | 21 | 36° 12′ 26″ | 139° 13′ 32″ | 平成元年12月６日から<br>平成元年12月22日まで | 147㎡ | 工場<br>(駐車場) |
| | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| | 集落跡 | 奈良時代 | 竪穴住居跡 | | 土師器<br>須恵器 | | | | |

下道南遺跡

2006年10月31日
編集発行　深谷市教育委員会
　　埼玉県深谷市本住町17-3
印　　刷　朝日印刷株式会社